京城日報

廿八日夕刊

定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾五錢
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

第卅九回特別帝國議會

衆議院（二十八日）

▲豫算委員總會

衆議院豫算總會は二十八日午前九時四十分前日に引續き質問を繼續す、寺内首相以下各大臣各委員出席

▽**鈴木梅四郎氏**（國民）前日に引續き質問を開始し先づ正貨激増の結果物價の騰貴に對する政府の調節策を質すや

▽**勝田藏相** は『正貨の利用策としては外債償還外債引受の外に出ず民間財界當事者とも協議し此方法に就き出來得る丈けの努力を爲しつゝあり』と答へ

▽**鈴木梅四郎氏** は更に『國事多端國防費増加の際行政整理の餘地無きや』と問ひ

▽**勝田藏相** は『整理の餘地を認めば必ず之れを行ふ考なり戰時利得税に就いても政府は調査を爲し居れり唯此議會に提出せざりしは臨時議會の性質に鑑みたるなり』

▽**鈴木梅四郎氏** は更に理化學研究所の貧弱なるを擧げて其施設を質すや

▽**勝田藏相** は『理化學研究所は寄附に因る五百萬圓の財源にて設立すべし目下此以上の計畫を爲す能はず』と答へ

▽**鈴木梅四郎氏** は『前内閣當時米價は十四圓より十八圓までを相當とし其以下に下りし時調節の途を講じ居りしが今日は米價暴騰を見る此對策如何』

▽**仲小路農相** 『前年米價下落の際は農村の疲弊を來たせり今日は騰貴の爲め下級民の生活難を來し社會政策上憂慮しつゝあり其原因を各方面より調査し適宜の策を取らんとす』（廿八日午後二時十分着東京特電）

▲豫算分科會

衆議院の豫算總會は廿七、八、九の三日間にて政府に對する質問を打切り三十日より分科會に移り一日は休會二日は分科査定三日は各派の査定方針決定の爲め休會、四日は午前中に分科の査定を終り同日午後或は五日午前中に總會を開き議決するに至るべし（東京特電）

○兩鐵道統一と樞府

特別委員會開催

樞密院にては二十八日午前九時三十分より永田町事務所にて鮮滿鐵道統一に伴ふ關東都督府及朝鮮總督府兩官制改正に關する特別委員會を開き委員長細川潤次郎男以下各委員出席し政府より寺内首相、後藤内相、有松法制局長官等出席す二十六日の會議に引續き

一、關東都督の滿鐵兼任に關する權限

一、法文上外務省の下に領事を置き關東都督をして實務の支配に當らしめんとする事項

一、滿鐵の鮮鐵委任經理事項

等に關する質問を繼續し、後藤内相、有松長官等專ら應答をなしたるが更に今一回會議を開催する事として正午散會せり（東京特電）

○帝國海軍巨砲計畫

加藤海相の議會言明

加藤海相は我海軍の主砲として戰闘艦に十四吋砲十二門、十六吋砲八門を備付くるの計畫ある事を豫算總會にて言明せり（東京特電）

○黒龍江事件と張督軍

張督軍は黒龍督軍事件調停の爲め孫旅長を北京に派遣せしが許蘭洲氏反對の火の手益々揚れるより二十七日更に一等參謀趙[illegible]氏を派遣せり（奉天特電）

○佛軍雅典を占領す

ザイミス内閣瓦解

雅典來電によれば佛軍は同市のスタヂオン其他の地點を占領しザイミス内閣は遂に辭職瓦解せり希臘新國王アレキサンダー陛下はヴエネゼロス氏に新内閣の組織を命じたり（紐育特電）

○特使渡米期

石井遣米大使は七月廿八日出發渡米の途に上る可し（東京電報）

◎下院常任委員

二十五日衆議院に於ける常任委員互選の結果左の如し（東京特信）

▲豫算委員

松浦五兵衛　町田忠治　大藏房次郎　田中善立　高木益太郎　政尾藤吉　正木照藏　奥田[illegible]　尾崎行雄　山根正次　三土忠造　山田珠一　川原茂輔　野村嘉六　戸狩權之助　島田三郎　秋田寅之介　吉原正隆　武市彰一　尾見浜五郎　清水市太郎　武藤金吉　望月小太郎　井上角五郎　早速整爾　[illegible]　山本悌二郎　有森新吉　堀切善兵衛　樋口秀雄　若尾[illegible]　武富時敏　石川[illegible]　土屋長久　中山[illegible]　原田十衛　加藤政之助　西村丹治郎　松田[illegible]　中川隣之輔　丸山[illegible]　黒須龍太郎　秋本喜七　鈴木梅四郎　中村啓次郎　小池仁郎　小川平吉　井原百介　福田[illegible]　奥田榮之進　川口[illegible]　友枝梅次郎　竹村良貞　指田義雄　小山東助　佃安之丞　東武　藤井善助　田中陸三　高木正年　岩崎勲　吉植庄一郎　臼田[illegible]

▲決算委員

井上敬之助　牧野[illegible]　鳩山一郎　田島達策　河波荒次郎　高見[illegible]　上村耕作　上野[illegible]　土井權大　横田孝史　奥村三樹之助　高田耘平　坪山十郎　大口喜六　淺野順平　今井今助　兒玉右二　日比野[illegible]　山口恒太郎　[illegible]　鈴木富士彌　井島茂作　平島松尾　齋藤和一郎　土屋[illegible]　宮本[illegible]　鶴澤來太八　川崎安之助　高橋光威　長島[illegible]　小林[illegible]　津田毅一　齋藤安雄　林[illegible]　加藤定吉　伊東[illegible]　野口孝治　平谷[illegible]　薩野[illegible]　井島茂作　牧山耕藏　高戸[illegible]

▲懲罰委員

荻野芳藏　長田桃藏　磯部[illegible]　廣岡宇一郎　清水[illegible]　八田宗吉　米田穣　前田米藏　高見之通　小山松壽　工藤吉次　三木武吉　成田榮信　小泉又次郎　川村[illegible]　河西[illegible]　田中[illegible]　横山[illegible]　石川[illegible]　小山[illegible]　松本[illegible]　井手[illegible]　高松[illegible]　近藤[illegible]　松浦[illegible]　玖木[illegible]　中川[illegible]

▲請願委員

瀬川[illegible]　木間[illegible]　福井三郎　林平四郎　齋藤隆夫　熊谷[illegible]　篠原[illegible]　志々目[illegible]　中村三德　高橋辰二　河野正義　田辺[illegible]　堀川[illegible]　工藤[illegible]　長峯與一　小橋藻三衛　加治壽衛吉　植原悦二郎　則元由庸　堀尾[illegible]　西村[illegible]　中西六三郎　板山金太郎　齋藤[illegible]　近藤[illegible]　三宅[illegible]　江藤哲藏　伊藤[illegible]　佐々木文一　高橋[illegible]　森田[illegible]　關和知　大林森次郎　長尾元太郎　隅田[illegible]　柴安新九郎　毛里保太郎　伊東知也　佐々木正藏　佐谷五右衛門　小林[illegible]　鈴木[illegible]　柏原安太郎

◎李總理の政見

李總理は所謂中立内閣にして最初より任期三箇月を條件として就職したる短期間に於て其政見を發表せざる旨言明せるが今李氏が個人として漏らせる對時局意見なるものを聞くに左の如し

▲**國會及憲法問題** 此問題に就ては（一）憲法より國會を產出せんとするもの（二）國會より憲法を產出せんとするもの二說あるも今日の計を爲すに後說を以て穩當となす可し されど此問題には各省各其主張あれば近く各省代表會議を召集して此問題の解決を圖る筈なり

▲**對獨外交問題** 各方面に反對あれば大局較定るを待ちて之が實行を圖る可し各國は元外交事件の爲めに支那內爭を惹起するを望まざる者なれば之が實行を遲延するも異議ある事なし此事は已に外交團に對して聲明したり

▲**內閣組織問題** 閣員選定は人材本位にて一切の黨派關係を問はず其成立を一時に望む能はざれば之れを三回位に分ちて發表する筈なり海軍總長の任命を急ぎたるは海軍の不穩舉動ある爲めなり

▲**西南の形勢** 西南方面は國會解散に反對せるに非らず唯だ黎後の大計に參與せんことを要求せるなり兩廣の獨立せるは黨人舉兵の活動を防止せんが爲なり彼等の國會召集を要求するは恰も北方の國會解散を求むると鋒鋩相對する者にて目下調停者に托し政府の意は國會の改良を求むるに在りて國會を不要とするに非らざる旨を勸諭しつゝあるが假すに時日を以てせば必らず調和の途あるべし

▲**政治犯赦免問題** は大問題に非らざるも目下假に之れを實行する時は反對者に口實を與ふるを以て姑く之れを猶豫し機を見て各督軍等より特赦を呈請せしめ公府より之れを司法部に移し然る後に宣布せば妨げなかるべし云々（北京）

◎政務總監歸京

李王殿下の御歸京を下關迄御出迎ひ申上げたる山縣政務總監は遠藤秘書課長陶山通譯官宍戶屬を隨へ殿下と共に二十八日午後五時四十分南大門驛著歸任せり

◎日支聯絡券扱改正

日支聯絡往復乘車券取扱手續左記の通り改正せられ七月一日より施行さるゝことゝなれり

第一條 日支聯絡往復乘車券は各鐵道共通運賃の二割引とし日支聯絡各驛相互間に於て之を發賣するものとす

第二條 本乘車券の有効期間は日支聯絡片道乘車券の通用期間の二倍に三十日を加算したる日數とす

第三條 本乘車券は特に之を調製せず左記によりて往復各別に日支聯絡片道乘車券を使用するものとす

一、往路の發驛に於ては往復運賃徴收の上片道乘車券に復路に對する乘車券引換證を添付發賣す

二、復路の發驛に於ては右引換證に依り無賃にて相當片道乘車券を交付す

前項引換證の樣式は別に之を定む

第四條 往復旅客取扱方に付ては本手續に定むるの外日支聯絡旅客運輸取扱手續による

◎遞信會議續行

遞信局に於ける局長所長技師の會議は二十八日も午前八時半より會議室に開會午前は郵便局長會同をなし午後は海事出張所長技師の會議を開けるが地方長官以下各課長局長技師等列席せり

◎李王殿下御歸京

李王殿下には廿八日午後五時四十分南大門驛著官民の盛んなる御迎へを受け驛貴賓室より御迎への馬車に召され太平通より[illegible]御歸京の御挨拶を遊ばされたる後[illegible]門前鐘路通を順路御宮に還御されたり

◎齋藤廠長出府

營林廠長齋藤音作氏は二十七日附を以て出府を命ぜられたり近く入京す可し

◎ハ副頭取入京

紐育國立商業銀行副頭取ハッチンソン氏は行員三名と共にペトログラッドに赴く途中二十八日午後八時南大門驛著列車にて入京二十九日京城各方面の視察を行ひ三十日午前八時十分南大門驛發の鮮滿直通列車にて歐洲へ直行すべしと

◎武者氏擢拔入社

藤山雷太氏及び芳川寛治氏等の創立に係る朝鮮炭坑株式會社に於ては創立總會を廿七日帝國ホテルに於て開催し諸種の打合せをなしたるが專務取締役としては現京城電氣會社經理課長武者鍊三氏就任する事に決定したるが七月十五日頃出發すべしと

◎川添檢査官歸東

目下北鮮地方旅行中の川添會計檢査官は二十九日午後五時入京し少憩の後同八時龍山驛發列車にて東上すべしと

◎滿鐵社員歸任

兩鐵合併問題に關する諸打合せの爲め來京したる滿鐵長春驛長小日山直登同社員矢野端の兩氏は二十八日朝南大門驛發歸任せり

◎辭令

二十六日附を以て左の通り辭令あり

三級俸下賜　依願免本官　朝鮮總督府道技師　三宅 鍬吉

三級俸下賜　依願免本官　公州地方法院江景支廳判事　朴 春 緒

◎秋山大將動靜

西鮮各部隊檢閲視察中の秋山軍事參議官一行は二十八日午前九時鎭南浦驛發同十時四十二分平壤驛着午後同地部隊を檢閲し柳屋旅館に投宿二十九日午前六時四十分平壤驛發黃州鎭南浦に赴き二部隊を視察し午後七時二十分鎭南浦驛著[illegible]の筈

◎白水參謀課長動靜

憲兵隊第二期末檢閲視察の爲め南鮮地方に出張中の白水憲兵隊參謀課長は秋山軍事參議官代理として二十八日李王殿下を釜山より大田まで奉送し同地に下車再び檢閲視察を續け歸任期を一日延ばし七月一日夜歸任すべしと

◎鳥取縣觀察團

滯京中の鳥取縣觀察團一行は二十八日朝南大門驛發水原觀察に向ひたり倘一行中二名は二十八日朝元山に先發したり

◎降雨と挿秧

黃海京畿兩道は猶ほ不足

近來の降雨と挿秧の關係を聞くに京畿道以南は六月中旬にも時々雨あり見たる爲め既に植附も大體に於て之れを終るを得たるも京畿道並に黃海道は旱魃の度殊しかりしため[illegible]三日の降雨にては用水倘ほ乏しく不足を告げ到底滿遍なき挿秧を見る能はず少なくも倘ほ四五十ミリの降雨を必要とすべし但し最近の降雨は水田に十分の濕潤を與へしに付直播を行へば必らず相當の形勢を見るべし因に連日若干宛の降雨あるに拘はらず倘ほ用水不足を訴ふるだけそれ丈け黃海京畿兩道に於ける旱天の被害の著しかりしを知り得べしと

◎朝郵運賃整理

▲遞信當局談

朝鮮郵船會社の運賃改正は二十五日總督府より認可されしが右に付某當局は曰く今回の認可は貨客運賃々率の標準を現行より若干引上げたるものなれど直ちに此の認可が實行運賃となり來るものにあらず近く會社より實行運賃承認の申請を提出し來るべく其の承認によりて初めて幾千の値上となるか明瞭する譯なり但し朝郵從來の貨物運賃は會社設立時代諸種の事情ありしに付今回彼是整理せし觀あり航路により其の率に多くの不同あつて最も低率の運賃にて貨物の輸送をなし得たる港は改正運賃の實行により多少目立ちたる影響を受くべきか、さりとて之れを社外船の運賃に比すれば倘ほ必らず二割以上の低率にあるなりと云々

▲實行期如何 朝鮮郵船會社にては二十五日附改正運賃の認可ありしため營業課は入京中なりし各店長と打合せを終り鋭意其の實行運賃の作製を急ぎつゝあるが何分非常に複雜を極め居るに付其の進捗容易ならざれども多分七月六七日頃迄に出來上り直ちに遞信局の承認を求め而して其の實行となる順序なるが多分實施は七月十五日頃となるべき模樣なり尚ほ貨物運賃は一齊に其の改正引上を行ふも乘客賃金は多數の鮮人を輸送する三等は据え置き一二等は倘ほ從來低廉に過ぎしため若干の改正引上げを行ふものゝ如し

◎朝郵店長會議終了

貨客運賃改正其他の事務打合のため召集中なりし朝郵各店長會議は二十七日を以て終了二十八日各店長は[illegible]にして諸種の觀察をなし同夜より二十九日に渡り何れも歸任すべしと

◎京電總會期日

京城電氣株式會社の今期株主總會は來る七月二十七日午前十時より東京麴町區有樂町生命保險會社協會に於て開會に決し近く株主に對し通知を發する筈なりと因に總會には京城よりは[illegible]專務東上すべしと

◎朝鮮無煙支店認可

京都に本店を置く朝鮮無煙炭鑛株式會社は二百萬圓の資本にて今春會社成立し石炭の採掘煉炭及び骸炭の製造販賣並に時宜により海運業をもなさんとするものなるが今回平南西鮮の會社採鑛地に支店設置の許可を總督府より與へられたり

◎降雨と漢江增水

旱天打續ける爲め漢江は平水より約四尺の減水を爲せしが既に三日來の降雨にて廿八日朝に於て僅かに約八寸の增水を見たるのみなり此分にては到底稻の植付は未だ不可能なりと

◎朝鮮民報社新築落成

大邱に於ける朝鮮民報社は社屋新築中の處此程落成したるを以て來る七月二日午後四時より達城公園に於て新築落成式を擧行す可しと

◎釜山人夫賃値上

釜山艀船業者は去る二十四日松濤庵に集會を催し協議の結果近時仲仕人夫賃の騰貴及び內地工業界に鮮人人夫を使用する傾向盛なるより續々出稼する者あり爲めに之れが喰止策として賃銀の值上げを行ふの止むを得ざる狀態なるを以て艀賃及び船內人夫賃を值上げすることに決定せしが其割合は本船人足賃は從來一噸十三錢乃至十六錢なりしを十八錢乃至二十錢に出入貨物艀賃は從來出貨三十三錢入貨三十六錢なりしを四十錢乃至五十錢に何れも值上げを行ひ今回を機として釜山艀船業組合を組織したるが增率賃錢は七月一日より實行の筈なり（釜山）

◎商銀統營支店開期

釜山商業銀行は來月一日を以て統營支店の業務を開始する筈なりしも準備の都合上同月中旬開業に變更し同支店長には現府山支店長砂田氏轉任の筈なり（釜山）

◎江原南部の旱害

春川の一部及び洪川橫城原州地方の旱魃狀況を踏査するに其慘害將に極度に達せむとす此の地方は去る十八日若干の夜雨を見たるのみにて河水涸渇し居れるが今月中降雨を見ざるときは井水又涸渇して一層の慘狀を呈すべし斯の如き狀況なるを以て已に龜裂を生じたる苗代さへ尠らず農民の苦衷實に察するに餘り郡當局に於ては本月中降雨なく植付の見込なき場合はいよ〳〵最後の手段を取らんとて目下其々考究中なるが貧民に對しては何とか救濟策を設け成るべく乞食餓死者を出さぬ樣各面長をして稗を蒔きて一部の收穫を補はしめ其れ〳〵必要の調査を爲さしめつゝあり橫城原州郡庶務主任等の談に依れば本年は騰價比較的高價に取引せられつゝあるを以て稍や旱魃の窮狀を補足する一助となるべく部民は非常に喜び居るも倘物價は米價の暴騰に連れ日々昇騰しつゝあるが爲め昨今此處彼處の山野に草根木皮を採集する者漸く現れ或は蕎麥を植ゑて之に混じ僅に糊口を凌ぐ者少なからず旱魃の生める慘狀は蓋し豫測すべからざるものありと（二十二日特派員）

◎長春經濟便り

▲鮮米の需要狀況 當地方に朝鮮米の輸入年々增加せるは一つは在留同胞の增加せるにもよるべきも倘一面には支那人の白米需用激增せるが大なる原因なるが如し當地と同樣目下哈爾賓地方にも盛に需用せられつゝあるが同地も支那人の需用者年々增加しつゝあり、支那人の嗜好に適する品物は米質の如何に不拘主として腐米を好むが如し、而して最もぬかの無きを最上として美味なりとは云へぬかの加味せる物は品質劣等として好まざるが如し、尚當長春及び哈爾賓等に於ける一箇月の需要高は別に何等統計の據るべきものなきを以て確定數とは云ひ難きも長春は一箇月約一千俵（三斗入）哈爾賓は一千五百俵位なるべし、而して長春より哈爾賓の需用多きは露西亞人支那人の需用多き故なり

▲果實輸入有望 當地方には果實產出無きに反し露支人の果物を食する事非常にして常に南方海上或は芝罘等より大連を經て輸入し來れるが價格高價なるより一般に苦痛を感じ居れるが幸にして豐富なる朝鮮產にして當地方に輸入を見安價に販賣せらるゝに至らば支露人の需要は莫大なる額に達するなるべし（森長）

＝開城＝

▲**春蠶良好** 當地方に於ける春蠶は既に全部上簇し成績最も良好なるが收繭量も昨年に比し多大の增加を示すべし郡廳に於て共同販賣を行ふ筈 ▲**用水不足** 二十四日夜小雨あり二十五日又降雨ありしも未だ揷秧用水十分ならず ▲**[illegible]師歸國** 好壽敎女學校敎師山縣悌三郎氏は暑中休暇にて廿九日より東京に歸省の筈 ▲衛理メソヂスト派の布敎管理者たるクラム宣敎師並にテイル宣敎師は何れも定期賜暇として不日歸來の途に上る由なり ▲**布敎師來著** 開城本願寺布敎所主任なりし今濱亮成師は安州に轉任となりたるが後任として京城本願寺輪番代理たりし芳原慶壽師（早稻田大學出身）は廿四日著任せり

＝木浦＝

▲**警務部長出張** 警務部長は巨文島方面へ海上警備視察の爲め去る二十四日夜來木二十五日午前六時發の警備船第二扇海丸にて出發せしが歸路は麗水順天より和順を經て入光の筈なりと從つて木浦衞生組合主催にて靑山島方面に出動の同船に便乘の視察團一行日程に無期延期となれり ▲**濃霧來襲** 朝鮮海の名物濃霧季に入り本年の初濃霧とも云ふべき二十五日午後より海上は勿論陸上も頗る濃厚なれば船舶の航行困難なるべし

人事消息

▲松永武吉氏（京畿道長官）▲吉田中尉（京城憲兵隊副官）二十八日午前李王殿下奉迎として成歡迄

▲吉岡海軍少佐 二十八日午前奉天へ向け通過

▲李海外侯爵外貴族四名 二十八日午前釜山より歸京

▲浦野成敏氏（小布施商業會社技師） 二十八日朝入京浦項旅館へ

▲ウエルス博士一行八名 二十七日午後平壤より入京

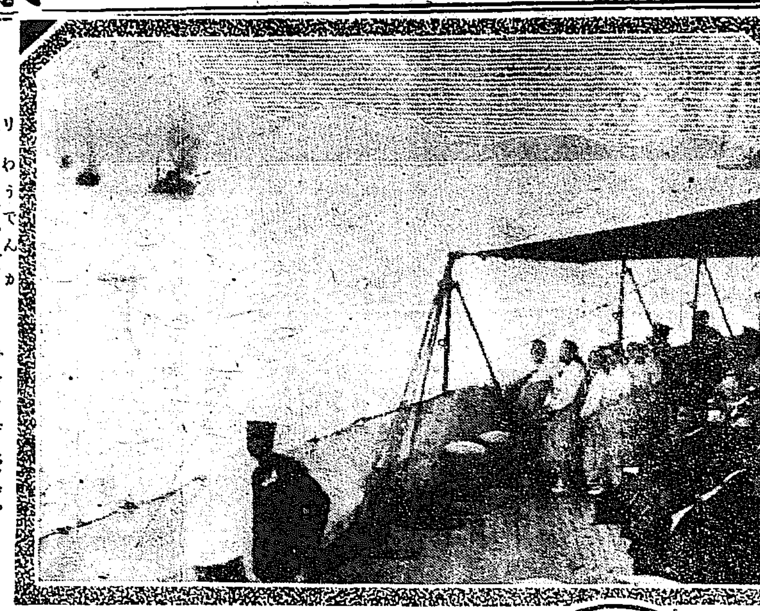
▲李容植子 二十七日午後釜山へ

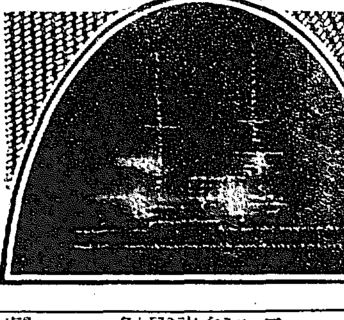
▲元田玄總氏（土木技師） 二十七日附[illegible]島へ出張を命ぜらる

▲野口耕一氏（同上） 同日甲山豐山へ

▲白井水城氏（辯護士） 二十八日海州より入京

◆御歸航『肥前』艦上の李王殿下(上) 釜山御到着の夜電飾せる『肥前』(下)





●李王殿下 釜山御出發

數萬人の盛なる奉送を受けつゝ

□奬學金御下賜

李王殿下一行の特別列車は二十八日午前八時數萬人の盛なる奉送を受け北行せり殿下には釜山各學校に對し奬學金として千三百圓御下賜ありたり(釜山にて特派員發電)

□洛東江御通過

廿八日朝釜山を發せる李王殿下の御召列車は洛東江に沿て午前八時廿二分龜浦著同五十五分三浪津著九時十二分密陽通過沿線畓代に麥畑に雨後の翠色滴るが如し殿下には臨時列車後部の

◇栗色の貴賓車 に召され緞子の色美しき御椅子の左右には御附武官贊侍女官等奉仕窓外の風光に御機嫌麗はし此の日殿下には陸軍大將の軍服に大勳位菊花章を帶ばせられ長途の御旅行に些の御疲勞の色さへ無く常に愉快なる御旅を喜ばれたりと承はる。御車中には御出迎の李堈公殿下以下朝鮮貴族の人々伺候

◇御機嫌を伺ひ たり汽車は北上するに從ひ雨勢强く漲れる河水田植の賑ひさては純白の栗の花など殿下の御蹄遊を賽べるが如し(清道驛にて特派員發電)

□大邱驛の奉送

御召列車は麥秋の雨を衝て十時卅分大邱驛著 歩廊には金久保旅團長 齋藤聯隊長始め第一大隊堵列す伺鈴木長官 中山覆審法院長等以下官民の奉送迎盛なり驛頭には色鮮かなる聯隊旗及び在鄉軍人及び在鄉軍人會分會旗の勇しく君ケ代の喇叭吹奏裡に列車は十分間停車の上出發せり(大邱にて特派員發電)

◆遠地々震の觀測

仁川觀測所の微動計は本月二十六日遠地に起りたる地震の波動を感じたるが其振動は同午後三時一分三十一秒に明瞭なる初期微動を二十四分二十三秒間繼續したる後緩漫なる主要動に移り午後三時卅六分に振動最大となり全振動一、九ミリに達せり爾後直に終期微動に入り振動漸次に衰へ遂に午後六時三分頃全く靜止したり尙本地震は振動の狀態によりて推測するに仁川より北西又は南東方約一萬キロ(二千五百里)の遠地にあるものゝ如くなるも未だ何れよりも報道なきを以て果して何れなるや確むる能はず

●北鮮の生魚を 東京へ 元山より鐵路直送

咸鏡南道に漁撈を有する香椎組は東京行の魚類を元山より鐵路直送する計畫 鐵道局との間に成立し二三日内に試送する筈なり目今東京に魚類の拂底の爲め有望なりと見込みての計畫なり(元山特電)

●全北洪水 交通全く杜絶

二十七八兩日の豪雨にて萬頃江は十九尺の增水を示し大塲村附近一帶海と化し交通全く杜絶せり輕便鐵道線路は浸水四尺に達し運轉不能となり二十八日發一番列車は東山より引返せり(全州特電)

●栗田師團長 懸崖より墜落

第十四師團長栗田中將は高崎聯隊檢閱の途次榛名山麓にて懸崖より墜落し昏倒せり但し生命には別條なし(東京電報)

●萬龍未亡人 大學教授と再婚

未亡人萬龍は早稻田大學教授岡田氏と再婚談整ひ近く結婚式を擧ぐ可し(東京電報)

●女に二十四箇所の重傷を負はせて劇藥自殺を遂ぐ

平壤遊廓の無理情死＝墮落せる青年

二十八日午前七時頃平壤賑町遊廓美人樓に於て無理情死ありたり女は同樓抱乙種藝妓五月事福岡縣生れ結城砂子(二七)と呼び男は平壤郵便局事務員郵便係松下消一(二三)と云ふ者にて男は近來五月の色香に迷ひ屢々登樓したるが元より

▲薄給の身とて 忽ち不義理の借財を重ね剩へ法律に問はるべき金錢の使込みを爲したるより死を決したるものゝ如く二十七日夜何氣なく登樓し廿八日朝に至り消一は隱し持ちたる短刀を以て熟睡中の五月に切り付け五月の驚怖して逃げ出さんとするを引捕へて捻ぢ伏せ所嫌はず斬り付け二十四ケ所の重輕傷を負せて慘殺し已れは同じく携へ來れる郵便局電信電池用の

▲硫酸銅を多量 に服し七轉八倒中を發見せられ樓中、上を下への大騷動となり兩人に對しては直ちに應急の手當を爲したるも女は旣にことぎれ男は約一時間を經て午前八時遂に死亡したり松下には餘罪ある見込みにて平壤署は直ちに家宅搜索を行ひたり女は福岡高等女學校出身の者にて失戀の結果自暴自棄となりて渡鮮し釜山芳千閣及び京城日耀樓等にて文學藝者として知られ平壤にては藝名文壽と名乘り居たりしが此の頃五月と改めたるものなり(平壤支局電話)

●黄海道に降雹

黄海道延州地方に二十四日午後八[illegible]ありて[illegible]被害[illegible]さる模[illegible]復せ[illegible]作物に對する[illegible]

[illegible]行中二人の鮮人現はれ出でマッチを貸せよと云ひしより金はマッチを出したるに件の鮮人兩名は矢庭に[illegible]

●連絡船不接續

廿七日夜釜山港に入港すべき關釜連絡船高麗丸は[illegible]により[illegible]新聞等不著なりき

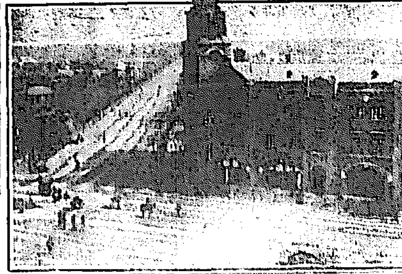
●警報(六月二十八日午前九時發)

雨强かるべし▲位置黄海北[illegible]

(讀者文藝)課題及募集規定

[illegible]同形の洋紙一枚毎に[illegible]

燒失せる滿鐵貸事務所の一角(奉天市街)



●滿鐵貸事務所燒失す 損害三十萬圓

二十七日午後七時奉天驛前の宏大なる滿鐵貸事務所より出火し二十八日午前二時鎭火す此建物内には銀行會社新聞社支局等日支人二百四十五人居住せり損害約三十萬圓消防夫一名負傷せるも生命に別狀なし(奉天特電)

▲宏大なる建築 再建は六ケ敷からう

奉天驛前の貸事務所は六七年前滿鐵で約三十萬圓を投じ建築したものだ建物の全形は停車場に向つて凹字形を逆さにした形となり、煉瓦建て三階の長大な内部は四五十に劃られ、そして

▲其一區劃苑 を商店會社住宅として貸す事になつてゐる、内部は堅固な二重戸が前後に二つ宛つき多くの窓ガラスも二重である、暖房裝置も出來てゐる、便所も一度々々に洗ひ流せる唯純西洋式と云へぬのは日本人や支那人に住ませるための建物だから内部に床などが出來て疊を敷く仕掛けにしてゐる事だけである、何しろ驛前に屛風然と建ちふさがり奉天初見參の士を驚ろかしてゐた建物だが

▲之れを營業的 に見ると家賃高きため空家が多く算盤はとれぬと云ふ事であつたから其の再建は如何であらう、何にしても奉天の外觀は其の貸事務所の燒失により餘程損せらるゝわけだ

●雨の宿 □力士訪問記□

相撲のためには降らなくてもいゝ雨が二十八日の初日といふに朝の程からポツリ〳〵と落ちて來た

▽何より苦手 の雨に閉ぢ込められてゐる力士連中をその宿屋にたづねて步いて見る、午砲が鳴つて間も無く巴城館へ行くと二階の奧の大廣間に浴衣の胸を展けて太刀山がビールの洋盃を手にしながらニコ〳〵してゐた、給仕に出た女中二人を相手に

▽輕い串戯か なにか言つて頗る御機嫌の態である、次ぎの間ではいづれ何處からか持ち込まれたらしい絹紬の三四枚を弟子の太刀ケ峰と鞍ケ嶽が二人がかりで枠に張つてゐた、「これが僕の親父で今年八十歳で今でも達者でゐるが、こんな小さい人だ」と言ひながら親孝行を聞わのある横綱は

▽先づ第一番 に羽織袴の人のよささうな品のいゝ老人の寫眞を取り出して見せた、そしてまだ力士になる前の村の若い衆時代のだの、結つた最初のだの、始めて十兩に下として番附面に名を出された時の番附だの、十兩時代に十日間全勝して昔からの

▽角界の記錄 を破つた、寫眞だの、その他にいろ〳〵古い寫眞を見せて吳れた、此處を辭して佐伯旅館に行くと黒瀨川が「一昨晩から腹を痛めて工合が惡いので……」と蒲團に寢轉んでゐたが大した事は無いと見えて同じ宿にゐる軍扇や友の山を

▽椽外の露臺 に連れ出して雨に濡れながら寫眞を撮したりしてゐた此處を辭して敷島の宿へ行くと「今、長中へお出でになつたところ──」と宿の者がいふ淸光館には伊勢の濱が「雨が降りまして困りました」と言つた『三四年前に參りましたときとは大へん京城も變りましたね』齒切のいゝ

▽東京言葉が 叮嚀である大關の部屋には紅葉川と太刀嵐が遊びに來てゐた、紅葉川は『私はこれで四たび來ますが最初に來たときには大變な景氣でした』とその當時の噂を話した『今晩李王殿下をお迎へに參らうと思ひます』

▽寡言な大關 は一句毎に物柔かな笑を含んで相手の問に答へた、力士も三役以上になると自然に態度風采が聰つてくるが、流石に大關の地位に古くゐる人であり性來溫厚な人だけに粗野なるを以て常とする角力取りの中には珍らしい紳士的なのは伊勢の濱その人だと思つた恰度大きなお店の主人と對してゐるやうなのは伊勢の濱と

▽悠くり話を する時に受ける感じであらう、同じ宿の土州山には時間が無いので會はず、若島は玉突きにでも行つたのかゐなかつた若島は初キユー突切りの賞牌を四ツも五ツも時計の鎖につけて得意になつてる玉突好きである、二時頃淸光館を出ると意地の惡い雨はまだじめ〳〵と降つてゐた(未完午後三時記)

●娼妓斬の判決

釜山綠町遊廓七福樓抱へ二枚妓お多福事生田むめを刺し負傷せしめたる市本福松(三一)の傷害事件は二十六日釜山地方法院に於て森判事より懲役三個月に處する旨判決言渡ありたり(釜山)

讀者文藝(一等に五十錢[illegible])

▲下句付け「云ひ出した」

○云ひだした父の手前は母が詫び(一等) 黄海道新浜 門脇紫浪

▲—者から祓ふ餞別酒 龍山 多美郎

▲—男貧乏籤を引き 龍山 旅坊

▲—者がどうやら臭い奴つ 松嶋 瑚非庄

▲—人がお先きに驅けちまい 咸州 松月

愛讀者優待

東京相撲 木戸割引券

本券御持參の方に對し一名限卅錢の木戸を廿錢に割引致候

京城日報社

京城興行中

商況

深川在米特電

二十七日現在高 內地米 鮮米 蘭貢米 八四三八五 三六九五〇 一、七四七、六七九

東京期米特電

廿七日前場 八月限 寄付 高値 安値 止め 三三、四九 三三、五五 三三、三六 三三、四〇

大阪三品特電

後場 [illegible]

大阪期米特電

二十八日前場 六月限 七月限 八月限 九月限 十月限 十一月限 二八、二〇 二八、九四 二八、五五 二八、〇五 二八、一〇 二八、三〇

下關期米特電

二十八日前場 寄付 高限 中限 先限 二三、七〇 二三、四一 二三、一三 二三、〇一 二三、一五 [illegible]

雜報

二十八日前場(晴押日貿) [illegible]

●綿糸布突飛 [illegible]

接き現物 [illegible]

綿布龍レー十圓 [illegible]

米棉の一圓八十圓 [illegible]

●細布値上げ二十錢方 [illegible]

引上 [illegible]

●冬羅紗天井不知 [illegible]

●新麥弗々商談 [illegible]

小麥の九圓大麥の四圓八九十錢 [illegible]

概して品質良好なりと

●綿布麻布賣漲る [illegible]

仲間取引さへ止 [illegible]

麻布類 [illegible]

●糸高こ洋襪 [illegible]

約一割五分以上の値上 [illegible]

產額愈々減少 [illegible]

輸出止 鮮內產は全く [illegible]

南大門の廻穀 [illegible]

●植物油近況 [illegible]

內地新物の出廻つ [illegible]

●砂糖小弱し [illegible]

荷動き鈍狀 [illegible]

多少小弛み [illegible]

下關相場

[illegible]

●皮革界の其後 [illegible]

確實な高騰步調 [illegible]

露國軍靴注文絕望 [illegible]

京城正米

[illegible]

出初め賣物稍々 [illegible]

多少持米賣萌し [illegible]

合ひ生じ弱持合ひ [illegible]

京城雜穀

一押し引下げ [illegible]

生魚市場

[illegible]

仁川期米

▲二十八日前場(小變動)

大阪天候晴 昨止り三錢 [illegible]

高の入電二節〇一 [illegible]

十一錢安に寄付 [illegible]

大阪三節十五錢と高移り [illegible]

大阪五節〇六錢と安移り [illegible]

十九圓丁度不勢の成行 [illegible]

仁川海岸町三丁目 米豆取引所仲買人 ㊑森仲買店 電話店用長九〇五番 六二五番 本宅電話 八三二番

定期賣買の栞、取引略說御一報次第御送附可申候 田中合名會社 電話長一六五二八番

仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 今村覺次郎 電話長三二六八番

市場零聞

▲小變動不勢 [illegible]

▲惡天候持續 [illegible]

總投げ投崩し [illegible]

買方惱の落に反 [illegible]

小口買方運殆んど [illegible]

昨日の大投げ退 [illegible]

▲主力筋見送る [illegible]

萬石に上る其數七八 [illegible]

大買玉は依然買据 [illegible]

主力筋さ目 [illegible]

▲人氣稍落付く [illegible]

依然四百丁以上 [illegible]

大下輪 [illegible]

仁川米豆取引所 二十八日の八月限

前場	寄付	十九圓	十		
	止め	十九圓	丁		
	高値	十九圓	十一		
	安値	十八圓	八		
	出來高	四萬三千九百			
平均値段	一節	十九圓	五		
	二節	十九圓	七		
	三節	十九圓	三		
	四節	十九圓	十		
	五節	十九圓	九丁		

賣買取組高 六月限 二千石 七月限 三千二百石 八月限 五萬七千四百石 二十七日後場 前日と比較 [illegible]

青山島鯖漁の盛況

周回四里の小島に漁夫四千人 本年の水揚二十萬圓に上らん

十年以來内地漁師の鯖漁の根據地として僅に其名を知られたりし青山島は全羅南道莞島郡邑を距る十浬の東南に位し木浦より五十浬の地點にある周回四里五部落を有し東西兩端に小港灣を備ふるの一小島なるが巨濟島に於ける長崎縣鯖漁師が時季の推移と同時に鯖群の西北方に移轉するを感じ同島に試驗網を張り相應の漁獲物を得しは

▲僅に五年前 に屬し爾後毎年同季節に漁場とせしが本年は鯖群の集來著しく六月初旬より漁業を開始し目下巾著網の數長崎縣十八組、廣島縣八組、愛媛縣五組、慶尚南道四組、福岡縣四組、島根縣二組、全南一組計四十二組の外愛媛縣の縛網二組其他釣漁としては鹿兒島縣約八十隻各縣の流網約五十隻にて巾著網は一組六隻の漁船を以て成り乘組五十名縛網は一組八隻乘組五十名にて其他の各來集漁船の乘込員七百以上にて總計三千有餘の荒漁師は

▲互に劣らぬ 大活動にて十二三日には巾著網一網一面の漁獲は五六千十七八日頃には同じく一萬尾二十一二日頃には實に四萬尾の平均漁獲を得魚價も昨年に比し幾分高値を保ち一尾一錢六七厘より二錢五六厘に上りしに二十二日の大漁には運搬船不足の爲め最低價となりしが其運搬も日本水産會社(元山神組)林兼組、西宗組、丸六組等の重なる仲買商に屬する

▲汽船發動機 船三十餘隻其他社外船とも稱すべき各府縣より來集の發動機船二十餘隻又親船と稱する買入帆船四五十隻は絶えず往來するも尚ほ不足の盛ありて斯の如くなれば陸上には海南警察署より巡査部長以下警官數名臨時出張駐在し水産組合全南支部よりは巡邏船内の郵便取扱所を陸上に移し一般郵便事務を扱ひ又漁業者診療所を設置し木浦莞島麗水方面よりは商人入込み日用雜貨商十三戸

▲料理飲食店 二十四戸藝妓酌婦八十餘名理髮店洗湯等皆三四戸あり殊に新派俳優一團の乘込み來るありて非常の盛況を來せるが毎年七月中位の漁季なるも本年は八月中旬迄は大丈夫なるべしとの見込にて一層喜び居れり因に本年の水揚は少くとも二十萬圓を下らざるべしとは一般の定評なるが如し

叔父を尋ねて

八歳の幼兒釜山から大邱へ

去る二十日大邱驛附近にて幼兒の迂路つき居たるを錦町駐在所巡査の發見するところとなり泣きながらよく〳〵取調べたるに原籍大阪府東成郡住吉町吉村勝夫長男吉太郎(九)といへる幼兒にて昨年兩親と共に渡鮮し全羅北道裡里にて何不自由なく育てられ居たるが不圖父勝男は風邪に罹されしが原因となり死亡後吏に母親は吉太郎を捨て何れにか逐電して行衛不明なるより爾來吉太郎は裡里警察署に於て保護を與へ居たる内釜山まで送り又も同警察署にて保護し居たるが吉太郎は曾て吉村春夫と稱する叔父が大邱に在りて織物商を營めりと聞き居たるを思ひ出し子供心にも叔父の厄介にならんものと決心し釜山警察署を無斷のまゝ飛出し遙々大邱に來れる事判明し目下吉太郎は大邱警察署にて保護を加へ叔父吉村春夫の所在捜査中なりと(大邱)

京日愛讀者の特權

東京大相撲全鮮各地巡業中

東京大相撲太刀山、伊勢ケ濱一行の鮮滿巡業團來鮮に付我社は例に依りて一行の景氣を添ふる爲め京城日報愛讀者各位との間に立ちて種々興味と利便とを兼ねた問題を提供致す事となりました。我社は既に巡業先乘年寄熊ケ谷と協定し大相撲の朝鮮巡業地

釜山 馬山 大邱 金泉 大田
群山 京城 仁川 平壤 新義州

の各所に於て興行中其期間通用の

京城日報讀者木戸大割引

券を其都度本紙に刷り込み切拔使用せらるゝ樣にして提供致します即ち木戸錢は三十錢の定額を本紙刷込みの割引券持參の方に限り二十錢で入場が出來るのです更に京城興行中は本社、地方巡業中は各地の重なる支局にて

幕内お好み相撲=飛付五人拔

など好角愛讀者諸君の爲め特に出さしむる事とし、角道の興隆上大々的氣勢を添ゆる筈になつて居ります

濤の砂

■墮落女學生 奈良縣宇陀郡政始村五條高等女學校卒業生辻野きみ(一九)は在學時代から手に負へぬ所から卒業後伯父に當る憲兵分隊長の許に預けられてゐる内德島から逃げ出し汽船で乘合はした米和の青年相川武夫(二六)と情意投じて大阪で同棲中を捜索取ひで九條署に召喚された

■恐ろしい嫉妬 埼玉縣與市町の本田りつ(三八)は亭主がりつの弟の姿と變な仲になつたので弟嫁に意見したが聽入れなかつたので絞め殺して自分は支腹を切つて悶絶した

■角帽は大賊 角帽を被り帝大學生だと自稱して芝其他の公園を徘徊ついて若い女を誑した上に金品を捲き上げ女學生二人を囲ふて贅澤な生活費に充つる爲め五千圓の大賊を働いてゐたのは福井縣無宿生れの齋藤圓松(二九)といふ優男

■手長の藝妓 靜岡市千代町生れ川關奧町藤米樓抱藝妓小臺事西村てる(二四)はお客や樓主朋輩から二百圓以上の金品を盗んで川崎に與地といふ二人の情夫に注ぎ込んだことが發覺した

■怨めな情死 愛知縣海部郡七寶村野熊助(八六)は二十三日夜妻その(八〇)との二人限りで長襲者の顧いのを悲觀して情死を企て二十三日夜そのを絞殺して自分も縊死を圖つたが死に切れず其儘自首して身柄は其筋に際がれた

■曲者は名家の息 二十一日相州逗子町披切不動の裏山で女學生二人を辱めやうとして果さなかつた曲者は東京麻布區飯倉町居住の海軍少將二男新島淸夫(二一)と言つて目下早稻田大學政科在學中の者ださうな

崖より落して殺す

慶北開慶郡籠岩面沙峴洞居住朴宗根(三一)は去る二十一日午前十時尙州郡外南面にて網商朴大利及び崔開國の兩人と網の商談中些々たる言葉の行違ひより憤り朴宗根は崔を捉へ高さ七尺餘の斷崖より突き落して死に至らしめたる事發覺し其筋に捕へられ取調中なり(大邱)

戀に破れて放火

慶北醴泉郡豊穰面臥龍洞梁利分(四三)といへる女は同地居住洪在浩と私通し居たるが洪に見捨てられたる以來憤怒の情禁じ難く遂に去る十五日午前三時頃洪方の表門より忍び込み人の寢靜まりたるを窺ひて軒下の藁に火を放ち同家を全燒せしめ直ちに何れにか逃走したるが其後其筋の手に捕り押へられて目下嚴しく取調べを受け居れり(大邱)

東萊から海雲臺へ

◆早朝から空は曇り勝ちなるも豫定の如く釜山の記者團一行四名は廿日午前八時半郵便局に集合し東萊行の電車に飛び乘り南門にと向つたが途中の故障は例の如く休憩はお定まりの上に釜山鎭に向ふ下り阪を全速力にて進んだ處が運轉手の先生僅かに熱心つてブレーキを力任せにしめた甲斐もなく[illegible]惰力で[illegible]故障を惹起せんとかけてあつて竹棧子に觸れ上空にあつた工夫諸共畑中に轉落したので一時工夫等は人事不省であつたが負傷のなかつたのは幸であつた

◆而して一行は十時頃南門に到着して見れば自動車の試乘案内は九時頃とある途中故障の爲め遲延したので待ち合す

◆當日は邑内の鮮人市とて邑内賑しき人出でおる見物にアチコチと歩き散つた頃に今しも勢よく馳せ來る自動車は一行の爲めに[illegible]より廻送したその車に打ち乘り十時五十五分道行を始めた自動車はお辭儀しき乘りながら釜山附近では珍しい故に折から田市の鮮人は珍しさに[illegible]する田に働く牛馬は驚いて[illegible]

◆車は邑内を外れ東南に進む中[illegible]如何にも山奥に入るが如く其山腹を一廻りすれば水も清き小川に架かる[illegible]橋を後にし川の[illegible]見ゆるは若松老松の點在中に一村あり[illegible]東下橋を越ゆる頃に景色は變る[illegible]橋を後にして今や渡川臨を打り詰め一曲すれば渡川橋を過ぎハンドルは眞南に向つた眼前は東萊川下流で其兩岸は小松の植林[illegible]の麗な織うて落ち行くのは之れが有名な佐水營灣で遙かに見ゆるは釜山港頭赤崎牛島五六島に打寄する大波小波の音は手に取る樣

◆松下果樹園を過ぎ今や海雲臺近くの沙地輕く進むタイヤの心地よし天氣曇りの内に[illegible]を遙かに背景として午前十時の定期に出帆せる連絡船行の[illegible]は煙を後に殘しつゝ東に進む其景氣や佳たり

◆自動車は勢よく佐水營灣を迴り過ぎ右手にせるは昔日崔致遠先生の命名せる孤雲臺(即ち海雲臺)を眺めつゝ松林深く別莊を松間に望み一行の自動車は午前十一時十五分即ち南門より二十分で式場たる溫泉場に到着した我等一行を出迎へる一法師君に案内された一室に休憩すると共に[illegible]午後一時過ぎ漸く來會一行入浴の後[illegible]氏の案内にて[illegible]を歷觀し一法師君の招待の接待あり終りて[illegible]午後五時[illegible]二十五分にして南門に[illegible](釜山にて龜井生)

釜山水道減水

釜山水道は春季以來降雨少なく爲に貯水減退し遂に去月來時間を制限し給水を行ひ居たりしも昨今梅雨に入り降雨ありしより幾分水量を増し尚引續き降雨ある見込なるを以て二十六日より制限を撤廢し晝夜開放することゝなしたり(釜山)

錬漁獲者處罰

慶北迎日郡浦項面鶴山洞十九番地居住迎日漁業組合長増野鶴雄(四五)が鮮人十八名と共に去る十四日午前六時より十五日午後二時に亙り迎日郡大松面松亭洞の沖合に地曳網を入れ錬兒一千五百尾を漁獲せし事發覺し浦項憲兵分隊に於ては慶北漁業取締規則違反として増野を罰金刑五十圓に處し外鮮人十八名は各々四十乃至三十の笞刑に處したり(大邱)

銅塊の行衛

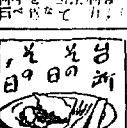
釜山港内に碇泊せる船舶へ沖賣せる飴行商人谷山草場町七十八番地金乙龍(三四)が價格二十圓の銅塊を古物商に賣却せんとする擧動不審なるより釜山署の刑事が乙龍を同署に連行取調べたるに該銅塊は日本郵船會社汽船立神丸水夫より金六圓にて買受し旨申立てたるに同船が本年三四月頃に神戸より某所へ夥しく銅塊を輸送したりし際時々不足を生ずるより畢竟船員の竊取せるものならんと注意中なりしも水夫兵庫縣赤穗郡御崎村字栗島三十番地西本武秀(二九)なりと判明し同人に就きて取調べしに同船乘組一等水夫香川縣小豆島郡安田村石井宗太郎(二八)が竊取せしを買取らんと約束にて飴賣の乙龍に六圓を以て賣却したることを自白したれば武秀及び宗太郎を釜山署に引致取調べ中なるが宗太郎は飽迄非認し居れども武秀の申立に依れば斯かることは度々のことにて引上げある銅塊も同人の賣却したるものなりや否やも判明せずと(釜山)

●篤志家 大田群山内面大別里居住木浦生れの金星圭氏は今回大田に中學校が設立せらるゝに當り朝鮮人も内地人同樣入學を許可せらるゝを聞知し大に喜び金五十圓を大田中學校の敷地購入費として寄附を申し込むと同時に現金を送納したりと今や同學校敷地の寄附金は日本人にして往々寄附行爲を拒み或は現金拂込を怠る向きある今日誠に奇特と云ふべし(大田)

●櫻井小學生徒より禮狀 二十六日開催したる本社主催お伽噺大會に際し櫻井小學校生徒諸君より本社宛に左の御禮狀が參りました

拜啓昨日は御社の御陰にて大井先生の面白き御話を承り少からざる利益を得一同深く感謝致居候右御禮申上度此の如くに御座候敬白

櫻井小學校生徒一同



▲稻荷壽司 普通の油揚ならば三つに切り稻荷壽司用のものならば二つに切りて袋のやうにひろげて茹でて一旦水を棄て、鍋に入れ鰹七醬油三ぐらゐの汁をひたひたに注し砂糖を少し加へて煮ます凡そ汁が煮つまつた頃火からおろし冷めたらば別にこしらへて置いた御飯をつめ干瓢で外側をさつと結へて置きます御飯は干瓢、蓮、麻の實などを入れて混ぜて置きます油揚の汁はしぼらないで汁をふくらんだまゝ御飯をつめた方が味がよろしゆう御座います

演藝案内

京城壽町 壽座 電話七五八番

▲大阪大歌舞伎澤村源之丞一行 六月廿二日より廿八日迄日延なし 廿八日(七日目)藝題

前 源之丞十八番の 鍋島猫騷動 龍造寺御殿の場より夜櫻殿遊覽の場まで(六場)此の幕に於て四つ御簾へ四つ御を張り澤村源之丞事小森の女房お仲より引拔き局所早取りにて化猫に變り四つ御の上にて空中の奇藝致し候べく特別なる御覽に入れ候

切 奥州安達ケ原 三段目

▲特等九十錢△一等七十錢△二等五十錢△三等二十錢

黄金館 電話二六三七 六五三 天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手代理店

魔術大博士松旭齋天一總員六十餘名

▲二十二日より七日間限り毎日午後六時開演 ▲世界的大魔術師松旭齋天一は襲名[illegible]天覽の光榮に浴し第三回渡米研究最も鮮かなる妙技を演す ▲[illegible]

御成座 電話一二九一 [illegible]

大正館 連日滿員御禮 大阪毎日新聞連載小説 德田秋聲先生傑作 家庭悲劇 誘惑 七卷 原作に忠實なる脚色放膽にして大規模の撮影 ●封切提供

有樂館 電話(階上)四九七番(階下)二〇五番 早川演藝部直營 東京小林商會商館一手代理店 米國ユニヴァーサル會社特約 [illegible]

壽館 京城壽町 電話一〇九〇三 巡業中の二代目桃中軒雲右衛門大一座近日乘り込み開演仕候

大正館 櫻井町 電話八七三 [illegible]

職工募集廣告
一、内鮮人製鑵職工ヲ募集ス希望ノ者ハ履歷書ヲ送附スベシ
仁川土木局出張所

最新特許 うどん そうめん そば 製麵機械
博覽會共進會名譽金銀賞牌各種受領

○家庭用麵機は規模小にして價低廉
○陳列場には各種麵機多數陳列せり
○説明書御望みの方郵券二錢要す
東京市淺草區東仲町二十番地
元祖 Ⓜ 眞崎麵機店
電話下谷(長)五二〇九・二二二五 振替東京七五三一

新荷著 スイス製 懷中時計 アンクル機械

品名	形	價格
(ニッケル側)十八形 (片蓋)		二圓五十錢
同 十六形		[illegible]
同 十八形		[illegible]
同 十六形		[illegible]
同 十七形		[illegible]
(銀側)クロム入 十八形(片蓋)		[illegible]
色付		[illegible]
金張 十年保證		[illegible]
旅行用目覺時計		[illegible]

右は今回新著の商品にて卸問屋に無き所の品物に附き小賣同一の値段にて御便宜を計るべく地方の御注文に對しては代金引換にても御送附申上候
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒各國直輸入商
インクレッシー商會
本店 京城本町二丁目 電話九七二番

內科 胃腸病 診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院 電話一二三七 九二〇六

眼科專門 入院隨意
京城明治町東拓横(電話二〇四四番)
日曜祭日午後二時迄
江頭眼科醫院 江頭富雄

大日本優等清酒 ハクツル

品質純良 衛生無害
攝津灘御影町 釀造元 嘉納合名會社
京城本町二丁目廿番地 發賣元 前田酒店 電話一三七番 振替口座四二五番

貯蓄預金 元金百圓ニ付日歩壹錢三厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店 京城黄金町電話四二〇番 振替貯金口座京城八一四番
同 龍山出張所 龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

東京大相撲 木戸無料入場券
東京大相撲京城興行中何處の店からでも……(京城興行中何日にても通用)
サツポロビール 大瓶半打御買求めの御方へは相撲木戸無料入場券壹枚無代進呈致します
サツポロ アサヒ エビスビール釀造元
大日本麥酒株式會社京城出張所

…方には去る二十日午後七時頃より雷鳴激しく暴風と共に强雨あり次いで約四十分直徑二分乃至四分位の降雹…
…米三升を背負ひ慶州市場に赴き之を賣…る代金…圓六十四錢を腰の巾著に入れて内東面進峴洞を通…六十四錢在中の巾著を奪取りて何れにか逃走したる旨急報せしかば目下其筋に於て犯人捜査中
…危險なりしにより港外に假泊し二十八日朝濃霧稍散じたる隙を見て入港せり從つて二十七日夜釜山發京城に著すべき急行列車は不接續なりし

(夕刊) 大正六年六月二十九日 (金曜日) 京城日報 (明治卅九年九月十日第三種郵便物認可) 第三千五百十五號

明君道中記

第百九十席　田邊南龍口演

木鼠の三次は三人の爲に溝へ投り込れて上る事が出來ない 三『誰か來て助けてくれ』 茶店の亭主が是を見て二三人の若い者を伴れ其處へ飛んで來て溝から上げる 亭『お怪我はございませんか』 三『有難う別に怪我はありません』 亭『それは結構ですが酷い目にお遭ひなすつて』 三『彼の侍は何處の奴で』 亭『彼は此の先に町道場を開いて居ります横山郷藏といふ人の門人で横野金次高野藤八齋藤仙吉郎といふ者でございますが、毎度亂暴を働いて町方の者を困らせ私共へ來て飲んでも途に勘定なぞを置いて行つたことはございません』 三『そいつけ酷い奴で』 亭『けれども侍だから面倒と思つて皆構はずに置きます』 三次は這々の體で常陸屋へ戻つて參りましたが泥だらけの姿を見て宅兵衞が 宅『何うした三次見物をして參つたか』 三『そこ處ではございません貴樣は溝へでも落たか、オヤ〳〵泥だらけだ』 三『イヤ酷い目に遭ひました』 宅『何で』 三『私は貴下の大小を拜借して侍のつもりで見物をしやうと出懸けまして本町の中央に小料理屋がありましたから其處へ入つて一杯飲うと思つて座敷へ通る途端、三人の侍が酒を飲んで居りましたので其の侍の大小へ蹴躓いて顛仆しましたので』 宅『イヤ粗忽な奴じやな』 三『然うすると其の侍が怒つて幾ら詫ても背きませんで私をさん〳〵に打擲をした上表の溝へ投り込んで手を叩いて笑ひながら行つてしまひました、口惜しくて〳〵なりませんが私一人では敵はねえ、何うか三宅さん此の敵を取ておくんなさい』 聞いて三宅宅兵衞が立腹をして粗忽で爲たこと惡いと思へばこそ佗をもいたすにそれを背ずして打擲をした揚句溝へ投り込むといふのは法外な奴 宅『三次他が行つて敵を取つて遣から一緒に行け』 三『有難うございます』 三次は衣類を着替て宅兵衞を伴れ本町の横田の道場前へ參りましたが恰度横田の道場では稽古時と見えて道場には大勢の門弟が打合て居りまする、宅兵衞は武者窓の下へ來て中を覗き込み 宅『コレ三次、貴樣を打た奴は何處に居る』 三『今稽古して居ります赤顔の奴、それから脇に坐つて居る色の黒い面長の奴でございます』 宅『ウム、彼奴か、赤くつて圓いから赤圓面といふのだな』 三『ヘエ』 宅『一人は黑くて長いから牛蒡面とも云ふのだらう』 三『牛蒡面ですか』 宅『イヤ何うも揃ひも揃つた下手な奴ばかり、劍術を遣ふのではない子供が棒を持て戯れて居る樣なものだ、グル〳〵廻つて居る處はとんと馳が迷惑ひをした樣だ』 三『ヘエー先生御ですかね、して見ると人間の形をして居て人間では無いのですな』と大聲で惡口を云つて居ると、是を聞た横田の門人共 ○『オイ〳〵誰か窓下で惡口を云つて居るぜ横野お前のことを赤圓面と云ふぜ』 齋藤『貴公のことを黑くて長いから牛蒡面だとよ、成程牛蒡面とは能く云つた』 仙『何だ貴公まで牛蒡面とは』 ○『拙者が云つたのでは無い表に居る奴が云つたのだ』 齋取仙太郎窓下を見ると先刻打のめした奴が居るから 仙『オイ〳〵横野先刻の奴が來たぞ、一人侍を伴れて』 金『成程大方仕返しにでも來たのだらう』 齋『二人を道場へ引入れて打据ゑて遣らう』と五六人表へ出て參り宅兵衞を取卷き 仙『コレ貴樣達は此方の道場を覗き込んで惡口を申して居るな』 宅『別に惡口は云はん』 仙『何だ赤圓面だの牛蒡面だの、平手だの上手だのと云つて居るではないか、平手と云はれては捌ならんから此方へ來て勝負をしろ』と三宅宅兵衞を中へ引入れました

京城南大門通三丁目七番地（鮮銀前停留所前）
入院隨意
胃腸病院
電話一六五九番
院主 佐々木杏造

六月三十日
舊五月十二日 癸卯
本命六白 乾 納 佛滅

▲書籍御案内▼
假名 貞觀政要
撞球指南
酒餅論
月江和尚錄
世界の變局
牛
商工界の七十日
修學行商日記
紐育市内外の地所
京城日報社代理部（振替京城三〇〇）

わきが
にて今迄彼是と他の藥を用ひ効なき方は
ワキガーザーを御用ひあれ 藥價六十錢
一回
京城黄金町三丁目 山田文殊堂藥房
電話二九四九

周易 介石堂
明治町二丁目
岡村介石

美人になる近道

御婦人一代のお化粧…の内

結婚前の令嬢のお化粧法

御婦人一生の大事たる結婚を前に控へて、花ならば是から咲かうこいふ此の時代のお化粧には、殊に御心遊ばさねばなりませぬが、近來東京でも大阪でも令嬢方のお化粧こいへば、淑女式化粧法こして定評ある左のお化粧法に殆んど極つて居ります。

（第一に）石鹼よりも牛乳よりも滑かに有効な日本名物クラブ洗粉で丁寧に顔を洗ひ、

（第二に）皮膚の美を養ふクラブ美身ゼリーを襟から顔へかけて塗る。若し荒れ性の方ならば、一番よくきくアレ止め兼用の美身クラブ美身クリームをゼリーの代りに用ひ、指先で能く擦りこんでから拭き取る。

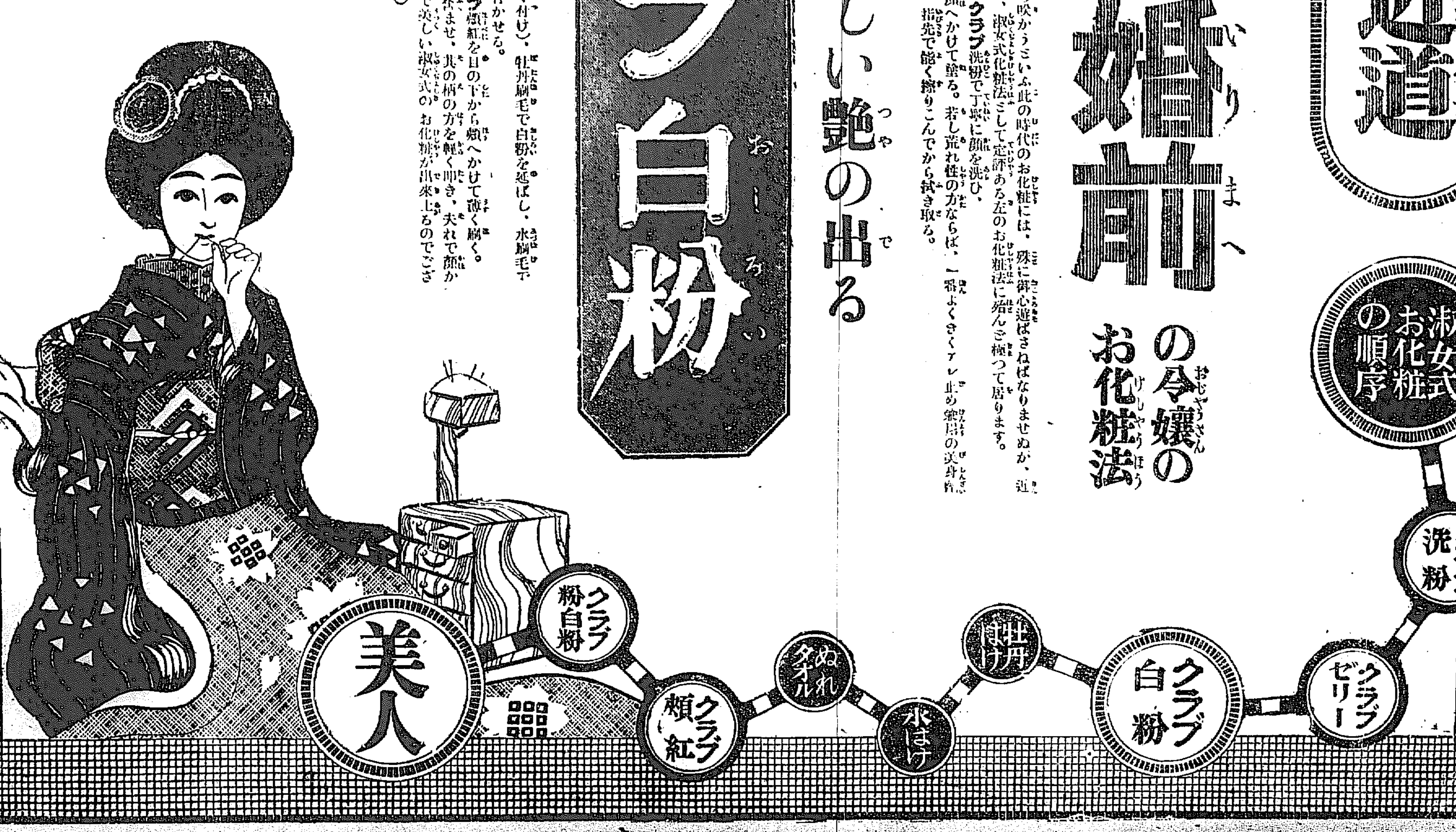
（第三に）一番高尚で美しい艶の出る

クラブ白粉

（生地まで白くなる）

（第四に）（第五に）を掌に取つて付け、（襟は顔よりも少し濃く付け）、牡丹刷毛で白粉を延ばし、水刷毛で白粉を均らし、濡タオルで抑へて白粉を落付かせる。お顔にホンノリ櫻色の健康色を與ふるクラブ頰紅を目の下から頰へかけて薄く刷く。お化粧を引立てるクラブ粉白粉を眉刷毛に含ませ、其の柄の方を輕く叩き、夫れで顔から襟へかけ能く刷き均らされますと、高尚で美しい淑女式のお化粧が出來上るのでございます。（下圖「淑女式お化粧の順序」御參照）

クラブ白粉は
宮内省
皇后宮職
各宮家
御用品



(明治四十二年九月八日第三種郵便物認可)

京城日報

第三版

六月廿九日 (夕刊と合せて八頁)

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢郵稅一ヶ月金十錢 三ヶ月前金壹圓五拾錢 廣告料 ▲五號活字十六字詰壹行金八拾錢 ▲二號活字八字詰壹行金壹圓六拾錢 ▲三號活字十二字詰壹行金壹圓貳拾錢

京城太平通一丁目 發行所 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之介
電話番號 編輯用 三四五番 一二一四番 營業用 三二六番 六六〇番 振替貯金口座京城三〇〇番

十七日後場 米相場

▲二十八日後場 [illegible] 東京二十三圓〇 [illegible] ▲兵庫 [illegible] 二十二圓 [illegible] 大阪 二十三圓十 [illegible] 後寄十 [illegible] にて當地 [illegible] 出來不申 [illegible] 九圓丁度と同 [illegible] 付たるも [illegible] 多く直に二十 [illegible] 錢丁度と上伸せ [illegible] 反りて又賣物多く無調にも [illegible] 伸せず [illegible] 七錢の小雨も久々振りにて明れたるより依然雨不足 [illegible]

▲ [illegible] 同店の買五千餘石 [illegible] ▲同店の賣二千餘石買五千餘石 ▲同店の賣三千餘石買三千餘石 ▲同店の賣千餘石買千餘石 ▲同店の買千餘石

後場 寄付 十九圓丁度 止 十九圓〆十五錢 高値 十九圓〆二十錢 安値 十九圓丁度 出來高 四萬五千五百石

●猛に暖殺さる [illegible]

京城日報

李王殿下の東上と其の効果(中)

第二に、殿下の御東上に就て、吾人の宜しく識認せざる可からざるものは、明治大帝の詔書に示されたる日韓併合の目的を具體的に徴象したること、是れ也。

日韓併合の目的は、言ふまでも無く東邦永遠の平和を保維するに在り。

明治大帝が宇内の大勢に鑑み、韓國が東邦禍亂の源泉たる事態に慮かる所あり、日韓併合を斷行せられたる所以のものは、日韓民族一致結合の實を擧げ、以て東邦平和の目的を遂せんとするに外ならず。爾來七星霜、李王家が我が皇室の優遇を賜はり、福履を増綏し、休祉を享有し、現在に於ても、將來に於ても、王家の基礎安泰にして、何等の動搖無かるべきは言を俟たず。而かも況んや今回李王世子殿下が、皇室特別庇護の下に陸軍士官學校を卒業せられ、士官候補生として軍務に就かせ給ひ、更に竹の園生の一方なる梨本宮方子女王殿下と御婚儀の成立を見るに至らんとする今日に於てをや。而して李王殿下御東上以來、我が皇室が國賓として之を歡待し、六千萬同胞が衷心よりの誠意を捧げて之を歡迎したる光景は、殿下の親しく之を看取させ給ひたる所なるべし。特に我が天皇陛下の寛大にして優渥なる御待遇に對しては、殿下の深く感謝せらるゝこと、吾人の信じて疑はざる所也。

又殿下の日本に在るや、其の日數短しと云ふと雖も、五十年來、東西の文明を鎔鑄して、造り出せる帝國特殊の文物制度典章を目撃し、駸々乎として進みて止まざる國民の氣象精神を洞察せられ、殿下の實物教育に資すること、少小ならざるものあるや、疑を容れず。所謂百聞は一見に若かずとは、此事也。此點に於て、吾人は、殿下が精神的に日韓併合の目的と効果を體得し、日鮮一致結合の已むべからざるを識認せられたることを信ぜざらんと欲するも得ざる也。

朝鮮民衆は、日韓併合以來、遍く我が帝國の臣民と爲り、總督政治の下に、其の生命財産を保障せられ、煕々として太平を謳歌し、其の荒廢を極めたる十三道の山河草木、今や鬱々葱々たる佳氣を以て滿たされ、一として其の面目を革めたるもの無し。而して今上陛下の深仁厚澤に由らざるなきは一千餘萬民庶の齊しく欽仰する所。而して殿下御東上の結果、一般民衆が明治大帝詔書の御旨趣を恪守し、進みて帝國臣民としての任務を竭すに懈り無かるべきや、固より論を俟たざる也。

顧ふに明治大帝の遺させ給ひたる大業の一たる日韓併合の目的は、東邦永遠の平和に在りと雖も、東邦永遠の平和を保維するは、實に朝鮮を綏撫し、日鮮兩民族の一致結合を圖るより急且つ先なるは無し。道次殿下御東上の結果が、日鮮兩民族の一致結合を鞏固ならしむるに於て、至大なる効果を與へたるに至りては、吾人が帝國の爲め、朝鮮の爲め、喜ばざるを得ざる所、而かも吾人が殿下の御東上を以て、日韓併合の目的を具體的に徴象したるものなりと云へるもの、必ずしも過言にあらざるを知るべし。

朝鮮の教科書(九)

編輯課長 小田省吾

一 普通學校教科用圖書(其九)

第五算術書(教師用全四冊) 本書は整數より小數、諸等數、分數、比例、歩合算、求積に至るまでを四年間に教ふる組織にして、理論に馳するを避け、日常實際の計算に適切ならしむるを主眼としたり。普通學校生徒は尋常小學校生徒に比し法規上少くも二年の年長なるにより、四學年にして略尋常小學校第五學年程度以上の進歩をなさしむべきを期したり。而して本書は編纂の都合上先づ教師用より著手し既に其の出版を了したるも、生徒用は今尚編纂中に屬せり。本書編纂上取りたる方針の主なるもの左の如し

一、教材は成るべく學習に便ならしむる爲左の如く之を排列せり

イ、小數の稍複雜なる乘除は分數の觀念を以て説明するを便利と認め、分數乘除の後に教ふることゝす。

ロ、比例問題を取扱ふに當り比の觀念を幼年生徒に明確ならしむるは經驗上至難とする所なるにより、本書に於ては歸一法によりて其の解法を授くることゝし、他の解法は之を附錄として餘裕ある場合に便宜教ふることゝす。

ハ、諸等數求積の如きは日常補めて必要なるもののみに止む。

二、本書の説明は朝鮮人教師等の使用に堪ふる樣特に精細の注意を與へたり。

三、算術教授は兎角生徒の嫌厭を買ふ嫌あるを以て、和算の方法をも參考し種々趣味ある問題を提出せり。

因に此の外普通學校第三、四學年に使用すべき珠算教授書をも別に出版したるが、こは國定小學珠算書(教師用)の順序を若干變更し、且つ之に算盤に依る運算の圖解を附したるものなるに付詳述せず。

第六理科書(全二冊) 國定小學理科書は記述極めて簡潔にして教師の説明を待ちて始めて理解し得べき組織となせるも、之れ全く朝鮮の現狀に適せざるを以て、本書に於ては此の方法を取らず、相當詳細に記述し別に補足を要せざることゝし、且つ務めて趣味あらしめ、而して之が教授は出來得る限り觀察實驗に依らしむることゝせり。本書の一特色は其の農業關係の教材を多く含むにあり、之れ蓋し公立普通學校に於ても未だ農業科を加設せざるもの若干之れあるのみならず、同程度の私立學校に於ては大多數農業を課せざるものなるに付、理科書に於て之が一班を授け其の趣味を長せしめむが爲に外ならず。本書編纂方針の主なる點如左

一、教材は主として朝鮮に適切なるものを選擇し、若干農業に關するものを加ふ。

二、朝鮮人は最も理科的知識に缺乏するを以て、本書の記述は成るべく理論に偏するを避け、實際の應用を旨とし、利用厚生の途を教へ、迷信を打破するに力む。

三、術語其の他讀み難き字句には多く振假名を施して通讀に便ならしめ、又設問を掲きて生徒をして書中の要點を把捉せしむるに便す。

東京より

二十五日 一記者

○支那政局、混雜を極むるや久し、且、最近に至り李經羲氏、内閣を組織するの志を決し、張勳氏一派は極力之を支持するのみならず、馮國璋氏亦之を擁護し、專ら撫に力むるより推すときは、大勢此に定まるべきや、殆ど疑を容れず。

○由來、支那に事ある毎に、南方分立を云はざるなく、曾て度も兩方六省の獨立は、獨立すべき形勢を示したれども、今日にては廣東廣西督軍の、大總統擁護を名として、自治を唱ふるあるのみ、是れとても、强て兩省を獨立せしむると云ふにあらず、只事體定まるまで、自己の地歩を占有せしといふに止まるを以て、李内閣にして確立するに至らば、南北の調和亦て期すべきなり、實を云はゞ、南北分立といふことは、雙方に互角の實力ありて、初めて之を云ふべく、北人は其武力を恃み、南人は其金力を恃みて、相降らざりしも、今日にては其情形著しく變代し、南方北方の中間に、長江筋に據るところの中央勢力を生じ、中央勢力は、常に北方官僚派武人勢力と、相連衡するの傾ある爲め、支那の局面は、大なる不均衡を來たしたるのみならず、南人の恃む所の、金力なるものも自ら限りあり、且南方には、口舌の人に富むと雖も、文武の實勢力たるべき人物を缺く爲め、過日、段總理を罷免して、局面革新を圖りたれども其事に當るものは、皆北方官僚武人の流にして、南人此に指を染むる能はざるのみならず、自己の勢力を代表する所の、黎總統を窮地より救ひ出すことすら出來ず、以て、今日の形勢を馴致せる次第にして、支那の爲めに、南北を觀るの時代は、既に過ぎ去れりと謂ふべきなり。

○過日、北米合衆國政府が、支那政府に警告を與へて、世間を驚かしたれども、是は單に、米國外交官が不行屆にて、支那に對する外交の慣例に違ひ、且其の内政不干渉の主義と、相戻るものあるを顧みざるの嫌ありたるが爲めにして、米國政府も其事體を省みて、釋然、自ら悟るところありたるは、甚だ喜ぶべし、北米合衆國政府は、本來支那に對して内政不干渉主義を取るものたり、且つ常に我日本及び英佛諸國と其出處を共にするを以て、其定義と爲す、此根本原則にして渝らざる限り、其枝葉問題、即ち外交上の形式手續等の異同は、深く問ふを須ゐざる也

○支那政局にして定まらむか、此に段内閣以來の宿題たる、參戰問題を解決せざるべからざる順序なれども、固と是れ、支那自ら處理すべき事柄にして、他人は與からず、協商國は其の味方の、一國たりとも多からむを望むべしと雖も、支那が、獨逸と國交を斷絕したるまゝ、協商國と好關係を保つも亦必ずしも不可なりとせず、恐くは支那自身に取りても亦格別の重大問題にはあらず、其進退は自然の成行きに任かすの外なきなり、我帝國本土の政治家中には、對支政策に、張膽明目するものこれ有る趣なれども、今日の歐洲戰局に就て之を見るときは、此上支那が交戰者として參加すると否とは、殆ど相軒輊する所なきなり。

隣邦を奈何(十)……對支國策を確立せよ

中島生

群衆心理

現時の如き當に觸らざる微溫的の日支親善でなくして、眞に徹底せる日支親善の實を擧げむと欲せば須らく彼我國民の臟腑を相通せしめ呼吸を相合せしむべし。時の政府と政府とが形式的に聯合し親善を呼ぶも何の效かあらむ。特使の往來禮を重ぬるも形式的なるに於て、何の持す所ぞ。政府者以て滿足なりとする。然かも支那に於ては、四億の民の最大多數が、特使の派遣や、之に對する對手國の歡待に風馬牛であり、日本に於ては七千萬國民の多數が、特使の來訪を重要視せぬ樣では、形式の交驩を以て、親善の步を進め得たりと做す、虛榮外交の弊である。實利を念とする外交に於ては、日本も支那も、親善を期するの要諦は、國民の心と心とを、結び付けるにある。切言すれば民族の精神を渾然融和するにある。之を日本の爲めに言ふ時は、日本は支那の群衆心理を利用するにあるのである。支那の群衆心理を利用するに於ては、先づ必要なるは、支那の國民性を知る事である。長所も短所も知り合つた仲であらねばならぬ。何から何まで知り合ふて、始めて但に刎頸の交を許すべし。若し日本として、世界に於て最も理想的の友邦を求めんとせば、丹は英にも非ず、佛にも非ず、米にも非ず、露にも非ず、獨にも非ず、隣邦支那であらねばならぬ。然かも日支の關係は常に衝に表裏せたやうな事ばかり言ひ合つて、何時まで經つても水臭い間柄である。而して日本は兩國の關係を今日の儘にしては措けないので、今一步も十歩も百步も、親善の關係を進める事に努力せなければならぬ。露骨に云ふ時は、支那は日本よりは國力が劣つて居る。單獨に曝らすれば、無論日本が勝つのである。日本が優位にあると云ふ事が、即ち日本が働き掛ける側に立つて、積極的に親善關係を計らねばならぬと云ふ道理にもなる譯だと思ふ。先方が此方から爲る位の權威を持つて居らなければ、解らせる丈けの事は解らなければならぬまい。それには彼れの國民性を知つて詣くと云ふ事が餘程大切であらう。支那人は天命に對する信念が深いとか、或は祖先崇拜の念が强いとか、孝道を尊重するとか、或は利財を重んずる性に富むとか、或は附和雷同性があるとか、或は文弱であつて平和を愛好するとか、或は形式辭合に泥むとか、或は倨傲にして然かも從順の性を有するとか、是等の國民性を知つて、彼と事に當らば、怒る時に怒らず、喜ぶ時に喜ばず、虛心平氣冷靜に彼れの出所進退を觀察して、緩急宜しきを制し、機に應じて得る所多いであらう。支那民族の群衆心理を最も適當に利用し得る國が、支那に於て最も優越の地位を占める事になる。その國は日本でなくてはならぬのであるが日本は未だ巧みに彼の群衆心理を掴み得たとは言へない。動もすれば却つて日貨排斥など云ふ反日本的群衆心理に逆襲されて懊惱する位である。其處へ行くと米國などは、遙か太平洋の彼方より巧みに采配を振つて、宜い加減に支那の民心を收攬して居るやうである。那邊の隣國日本では今以て關稅問題が如何だとか、鄭家屯問題が如何だとか、對支警告の出し振りが如何だとか、梅雨空の鬱陶しきに、更に蒸し暑さを加へて居る有樣である。支那の群衆心理を利用する方法を講ずる前に、日本は先づ以て日本の群衆心理を適當に統一する必要がありはせぬかと思ふ

日報詩壇

丁巳六月八日南大門外觀李王東覲儀衛有作 三首

淺見素堂

方見李家慶賜新。長亭短驛不揚塵。便宜坐拜非公志。促駕迢遙向紫宸。

往事何論叛與淪。無涯帝德等乾坤。誰知成北但微出。偏得天朝不日恩。

異姓封王希所聞。衣冠絡繹向青雲。知鶴觀入京日。萬歳聲開擁道殷。

評曰。紀事敘厚。含意深淵。俯仰今昔。感情無盡。宛是擧代史筆。

中元景品附大賣出し

◆何を撰ぶべきか!!

□中元御贈答用品の値段は何れも突飛な暴騰を見ました

□此際値段の少しも上らないのは東亞煙草のみであります

□今の時節に東亞煙草位い便利重寶のものは有りません

賣出期間 自六月十五日 至同七月十四日

抽籤期日 七月二十日

抽籤場所 京城總販賣所

引換期日 自六年七月廿一日 至同年七月卅一日

賣出品名

敷島、朝日、百圓
千圓、ワンダー、
ヘルメット
各一ボール毎に景品券各一枚

さつき、はぎ
あやめ
各四十匁入二袋毎に景品券一枚

■景品種類■

▲壹等 五本 (白米壹石宛)

▲貳等 十五本 (夏向き毛メリヤス壹組宛)

▲參等 百本 (朝日一ボール宛)

▲四等 二千二百八十本 (敷島壹包宛)

▲五等 七千五百本 (ワンダー又は千圓壹包)

▲等外 三萬五千本 (郵便はがき一枚宛)

東亞煙草株式會社

第卅九回特別帝國議會

▲衆議院（二十八日）

衆議院は二十八日午後一時十分開會諸般の報告あり會議に入り小山松壽氏（憲政）より速記は議事構成の要素なれば議事の進行と速記錄と相違ある場合は議場に諮られたき旨議長に對する希望あり直ちに日程に入り前日の本會議に提出されたる七法律案以外の政府提出の十七個の法律案及び市町村教育費國庫補助に關する建議案、義務教育國庫補助に關する建議案、治水事業速成に關する建議案に就て夫れ〳〵各大臣及び建議案提出者の說明あり各特別委員に附託し三時十五分散會せり（東京特電）

▲豫算委員總會

廿八日引續き開會

衆議院豫算委員總會は前日に引續き二十八日午前九時四十分開會鈴木梅四郞氏の質問（二十八日夕刊所報）終るや政友會

▽武藤金吉氏 發言を許されて起ち、地方金融改善、產業獨立、生產獎勵、殊に農業振興に對する施設方針に就きて質問し勝田藏相、寺內首相より答辯あり次で「經濟調查會の成案は抽象的にして國民の實際生活に適せず農村振興の方針如何」と問ふ之に對し

▽仲小路農相 は經濟調查會の成案には直ちに實行し得るものと然らざるものとあり農村の振興に就きては緩急を斟酌して實行を期すべし」と答ふ次で

▽島田三郞氏（憲政） 發言を求め「外交調查委員會の權限如何」と質す所ありき

▽寺內首相「外交調查委員會の權限は憲法と共に御發布ありたる上諭を拜見せらるれば明かなるべし而して調查會には國防に關する權限なきも外交の關係上國防の事を論評する事もあるべし其の他は文書にて回答せん」と言ふや島田氏は衆議院規則第百十三條を楯に取り「文書にて回答するは不法なり」とて首相の答辯を要求して已まず有松法制局長官代りて答辯せんとすれば島田氏は貴族院に於ける江木千之氏の例を引用して有松氏の答辯を避け猶首相と島田氏との間に質問答辯の能否に就きて押問答あり

▽島田三郞氏 は一轉して「海軍の地中海出動に就きて疑問あり帝國船舶保護の爲めならば地中海よりも英國近海に必要あるにあらずや」と問へば

▽加藤海相 は「聯合與國の商船保護は現在の聯合與國の海軍力にては不足あると信じ我が海軍の一部を出動せしめたり故に地中海にある我が艦隊は大西洋にも出動し得猶此の出動は外務省と同意の上なり」と答へ

▽本野外相 は「我が艦隊の地中海出動に關しては與國として當然の責務にして之に對して聯合諸國と何等の約束なし」と答辯し十二時五分一先づ休憩す午後一時四十五分再開午前に引き續き島田氏質問を續け鋒先を轉じて再び西原龜三問題に入り

▽島田三郞氏 「朝鮮銀行外二行が支那交通銀行に二百萬圓融通の假契約には河野忠太郞、西原龜三當事者たり、西原が寺內伯の紹介狀を持ち兩者間に斡旋せる事實は蔽ふべからず然も是れ以外二千萬圓融通の內約あり而して西原には朝鮮銀行に多大の負債あり現藏相勝田氏は元朝鮮銀行總裁たり其の間の關係推測に難からず」之れより約一時間に涉り前日の本會議に於ける質問と同じ意味を繰返し要するに西原の支那に於ける行動は個人的にあらず寺內首相關係せざる限り斯かる有力なる活動を爲し得べき筈なしと論じ來るや

▽本野外相 は「島田君は支那政局の紛糾に關し西原一個にて其の原因を爲せる如く解せらるゝも本大臣は斯くの如き事を信ずる能はず又林公使が西原の北京滯在中歸朝せるは打合せの必要生じたる爲めにて決して當時の北京政界に對して不注意なりしものにあらず又支那南方の人々が日本を恨りとの島田君の說は首肯し難く日本は何れよりも恨を受くる理由なし」と辯ず

▽勝田藏相 「島田君の質問中にありたる五十萬圓借款の期限は前內閣時代の事にして其の條件に就て三銀行と藏相との間に意見の相違ありしも日支親善の爲めには苛酷なる條件を附すべからずとし三銀行間の意思を傳へたるのみ」猶首相と島田氏との間に二三の押問答ありて島田氏質問を打切り次で

▽有森新吉氏（國民） 政府は官業を民業に移す意なきか」

▽寺內首相 前內閣以來官業整理委員會の調査に依り既に處置を了し一段落を告げたり」

更に有森氏より兵器製造所の位置に關し首相と二三の押問答を重ね次で清水市太郞氏（政友）の質問勝田藏相其他の答辯あり四時散會せり（東京特電）

▲憲政代議士會

不信任案滿場一致可決

憲政會は二十八日午後零時三十分院內控室に代議士會を開き別項の內閣不信任決議案を議題として附議し滿場一致可決せり猶席上大竹貫一氏より二十九日築地精養軒に於ける內閣反對各派聯合大會に多數の參集を希望する處ありて散會せり（東京特電）

▲不信任案內容

憲政會にては二十八日既報の如く現內閣不信任案を衆議院に提出せり其決議案及び理由左の如し（東京特電）

決議案

衆議院は現內閣を信任せず

理由

現內閣は國民輿論の府たる衆議院に基礎を有せず其の存立は立憲の常規に反するのみならず議員の言論を抑壓して妄りに解散を奏請し其の總選擧に臨むや公論を阻遏して陰險惡辣の干涉を逞しくし加ふるに在任九個月寂も成績の見るべきなく特に外交に至りては其の施設機宜を失して國交を傷け國利を害し濫りに閣外特設の機關を設けて責任の推移を圖り閣臣責任の本義を紊す之れ本案を提出して處決を促す所以なり

◉御乘艦下拔錨

李王殿下の御乘艦たる光榮に浴したる軍艦肥前は二十八日午前九時三十分佐世保に向け歸航の途に就き警備艦村雨朝霧の兩艦は鎮海へ向け歸航せり（釜山特電）

◉李王殿下御滿足

皇室の御優遇と熱心なる官民の奉迎送

▲國分次官談

李王殿下御旅館釜山鐵道ホテルに於て國分李王職次官は語つて曰く「今回の御旅行は實に朝鮮に執りても空前の事であつたが內地に於ても亦殿

▲未曾有の盛儀 なりき、殿下の一行は下關上陸以來二十日間に互り公式の歡待を受けたるが我皇室の御鄭重なるは勿論國民一般の殿下に對する赤誠も亦實に盛なりし殿下には此度の御旅行に依り御機嫌殊に麗はしく御頰のふくよかに肥ねさせられし事と云ひ御血色と云ひ俄かに

▲御健康を增進 せられたるものゝ如く御旅行中の御愉快さは屢々德壽宮に電報にて御通知せられたる次第にて德壽宮よりも何よりの喜びに堪へざる旨繰返し返電ありたり御召列車の過ぐる沿線の熱誠なる奉迎送にはいたく

▲御滿足の模樣 に拜せらる殊に嚴島迄は軍艦『石見』より殷々たる禮砲を發したるが其外瀨戸內海の如き風光を背景として帝國艦隊が禮砲を發射したるは頗る壯觀なりし、下關にては『軍艦』富士が皇禮砲を發射し長門の風光亦殿下の御旅情を慰むるに充分なりき」

▲金事務官談

更に事務官金東完氏は曰く『今回は下關以來公式の御旅行續きにて內地の歡迎の盛なりしは筆舌のよく盡す處に非ず又六十名の多人數にて二十日間に亘る公式待遇は事實未曾有の事なる由、如何に皇室が

▲殿下を御歡待 あらせられたるかを察す可し下關にては皇禮砲を發射したる試しなきに今回は此事あり其外御召列車は通過沿線各地學校生徒の奉送迎を受け又田植女に至る迄わざ〳〵

▲笠を取て奉送 するを見受け殿下を始め一行は感激措く能はざりき殊に女官の人々は內地人の禮儀の厚く忠義なるに感じたり御旅行中到る處晴天續きにて宮島も殿下御滯在の前日迄は大雨なりしが當日は雨歇みしなど

▲全く不思議 と云ふの外なく一同『李王日和』と喚し合へり尙ほ一行中一人の病人無かりしは寔ぶべき次第なり』と（釜山にて特派員發電）

◉造船規程改正

豫而遞信局にて立案中なりし朝鮮造船規程中改正の件は今回審議を終り廿六日官報號外府令第卅五號を以て公布されしが第一編船體部卅六章第二編機關部六章全文四百七十二條より成り其施行期は七月一日よりなり尙ほ本令施行前船籍に登錄したる船舶にして舊朝鮮造船規程に合格すと認められたるものは本令施行後と雖も該規程による事を得せしめて該規程に合格したる船舶は之れを本令に合格するものと看做す旨の附則あり

◉各地の降雨量

二十七日よりの降雨は全鮮に亙りて降雨を見ず二十八日午前六時現在に於て木浦十粍中江鎭五粍を示せるに過ぎず去る二十四日の雨量は各地とも相當にありたるものゝ如く京城測候所調查に依れば龍岩浦六粍平壤七粍仁川九粍木浦一粍中江鎭五粍雄基一粍城津五粍元山二粍江陵一粍釜山四粍京城十三粍なりと

◉立花中將歸任

李王殿下御出迎の爲め釜山に向ひたる立花第十九師團長は殿下と共に二十八日午後五時四十分南大門驛着歸任したり

▲古海總長歸任

李王殿下御出迎の爲め下關まで出張せる古海總務長官は李王殿下と共に廿八日午後五時四十分歸任す

▲諸員歸京

御東上中なりし李王殿下に隨從せし諸員及び下僚人は釜山に出迎へたる文武官は孰れも殿下御搭乘の特別列車にて廿八日午後五時四十分南大門驛着歸京したり

▽隨從員 ▲尹澤榮侯 ▲李載崑子 ▲閔李王職長官 ▲國分同次官 ▲尹間贊侍 ▲李乘武副將 ▲玄百運事務官 ▲權藤事務官 ▲武藤事務官 ▲金東完事務官 ▲高羲敬贊侍 ▲金永甲贊侍 ▲申錫均武官 ▲康弼祐武官 ▲李東規武官 其他女官

▽御出迎者 ▲李堈公殿下 ▲李載覺侯 ▲李完用伯 ▲閔泳璘子 ▲閔泳徽子 ▲金春熙男 ▲李允用男 ▲閔商鎬男 ▲松永道長官 ▲岡部本社長等

◉面費豫算と賦課率

京畿道管內面費は郡外十九郡二百四十八面に對する大正六年度歲入歲出豫算は歲入二十九萬六千六百十二圓六錢五厘、歲出二十九萬六千六百十二圓六錢五厘にして前年度歲入出豫算額に比し一萬八千六百八十九圓六十八錢二厘を增加し一面平均歲出入豫算額は一千百九十六圓一錢六厘の割合なり而して現在京畿道管內二百四十八面に對する面費賦課率を聞くに戶別割は賦課戶數二十六萬四千九百三十五あり此の賦課率最高面七割最低面一割賦課率平均二割八分四厘にして地稅附加本稅七十五萬三千七百五十九圓十錢に對比して最高面二割最低面一割平均一割九分六厘の割合なりと云ふ

◉釜山鎭道路改修

釜山鎭より東萊に至る道路（此間四里）は國道として總督府に於て改修することに決定し釜山土木局出張所は本局よりの命令に接したるを以て實地調查に着手せる趣なるが同工事は第二期治道費の臨時議會通過を待ち直ちに着手すべしと（釜山）

◉中學入學希望者

京城府內各學校生徒中大正七年度に於て中學入學の希望を有するものに就き今回當局にて調查の結果に依れば既に總數三百八十才名を算し居れるが此他本年の入學に洩れたる者又は地方より上京する者等を合算すれば明年度に於ける京城中學入學希望者は優に五六百名に達すべしと云ふ而かも京城中學の入學許可人員は現下僅々二百名內外に過ぎず京城を始め半島人口の增加と各都市の繁榮と及び人文の發達とは漸次敎育の普及を要求し々中學入學希望者を增加するは自然の理にして半島政治上慶ばしき現象と謂ふべく從つて此際に於ける中學增設問題は焦眉の急務たる事言を俟たず

◉廣瀨主計監來釜

駐劄軍經理部長廣瀨正德氏は二十八日夕大邱より釜山に來著せり（釜山特電）

◉後藤瑞巖師歸山

臨濟宗妙心寺派朝鮮布敎監督後藤瑞巖老師は先刀來京都、東京、鎌倉、岐阜地方巡錫中の處三十日朝南大門著歸山の由

人事消息

▲川上常郞氏（大阪朝日新聞記者）二十八日夜入京 ▲窪田田實氏（戶畑商工新報社長）二十八日朝退京

南言北語

成金も種々あるが豆成金で一握二百五十萬弗を得たのは先づ日本人中には唯一人しかあるまい▲東北理科大學助敎授の佐藤理學士は滿洲米中豆から得るセルロイドで烈しい爆發性を有する藥物を發見し▲其の權利をハーキユリーポーグ會社へ二百五十萬弗で讓り渡し內百五十萬弗を前金として受取り▲一躍大成金となつて歸朝したと米國新聞は傳へて居る▲果して何うだか其處迄は知らぬが兎に角科學的の發明をして大成金になつたのは最近の所先づ同君位のものだらう▲斯う云ふ成金なら船成金などとは違つて大威張で何處でも行ける譯だ▲石川千代松博士が濠洲シドニーで動物調査をやつて居ると▲日本一の動物學者に會ひたいと申込んで來た男があつた▲早速會つて見ると御入用の動物があらば幾らでも集めて差上げると云ふ奇特な話▲博士は大喜びで話を進めやうとすると對手の先生一段聲を潛めて▲其の代り御國の勳章を一つ御周旋を願ひたいとは罪のないやうな慾の深さうな口振り▲博士が大に當惑すると先生ぬからず貴下は學者だから判るまいが▲英國政府からは僅か十萬圓位の物を周旋して一つ貰ひましたよ▲と來たので博士は二の句も出なかつた相な▲田中館博士と羅馬字は何うしても切れぬ密接な關柄であるが▲博士は近來羅馬字短歌と云ふのを作つた相な其の一二を鳥渡御披露申すと▲「もよみの青の藥草を目くらさへ書きわけうべきタイプライター」▲最ふ一つ「山の中にタイプライターたゝき居れば木啄や居ると人の思はん」▲變り者の中村進午博士の處へ之れも變り者の畫家山田浩蒼君が來て▲「水死者の男女を問はず『土左衛門』と稱するは之れ如何に」と禪問答的に質問すると▲博士は頭を捻つて居たが『女ならば土左子サ法理上さう命名するのが至當である』と大眞面目は面白い

□夕刊寫眞『御歸航肥前艦上の李王殿下』の寫眞は同艦軍醫長奧田海軍々醫少監の撮影なり

◉獨逸政府の陰謀露顯

諾威政府に對する＝國交斷絶か

前駐支獨逸公使ヒンツエ氏は諾威駐在公使に親任されしも諾威政府は其の任命に承認を與へず依つてヒンツエ氏は或は要求を提出せんとする目的を以てクリスチヤニアに赴くべく其の要求は最近諾威に於て獨逸公文書開封され獨逸の諾威に對する陰謀露顯せる事件ありたるを以て多分右に關するものなるべく場合に依りては獨逸と諾威の國交斷絶を見るべし（倫敦電報）

◉米公使鐵道借欵抗議

支那政府の往復文發表、問題惹起か

駐支米國公使はシムカレー鐵道借欵契約に就き支那が計畫を履行せざる爲め交通部に對し抗議を提出し交通部は又復右抗議を辯駁せる回答を發し同時に二十七日公報にて其顚末を發表せるが要するに之等外交の往復文を公然發表せるは未だ曾て聞かざる處にて之れが爲め米支間に或は問題を惹起す可しと憂慮するものあり（北京特電）

▼朝鮮ノ行政區劃一覽出ヅ▲

法政大學校友 朝鮮西大學校友 越智唯七編纂

司法大臣松室致閣下題字 土肥古貞太郞先生序文 小笠原寬先生序文

新舊對照 朝鮮全道府郡面里洞名稱一覽

大正六年四月十日現在總クロース金文字入菊版千百五十頁定價金參圓

曩日總督府及各道廳ニ於テ一大廢合セラレタル府郡面里洞ト舊廢洪…セシタル土地調査局ノ調査ト相俟テ朝鮮全道ノ行政區劃ハ確定セリ然レモ未タ一目瞭然タルノ書籍ナク執務上參考上不便此上ナキ折柄本書ヲ纂セリ本書ニハ道、府、郡、島廳及面事務所ノ所在地ヲ示シ末尾ニ朝鮮ノ沿革日「鮮、清、西曆ト」ノ詳細ナル對照年號ヲ示シ管區數、人口、戶數、道里數「各道ノ廣袤、交通、產物、名所舊跡、溫泉其他ノ概況ヲ掲ケリ、各官廳ヲ初メ政治家、實業家、學者、交通、產業其他何モ朝鮮ニ關係ヲ有スル士ノ須臾モ缺クヘカラサルノ必携書ナルコト敢テ多言ヲ要セサルヘシ此際實價ニ等シキ價格ヲ以テ發行セリ部數ニ限リアリ諸賢速ニ購求セシコトヲ請フ

發行所 京城府公平洞五番地 電話一四五〇番 中央市場

書籍雜誌類 用品紙絹綢類 各種萬年筆販賣及修繕○○ 京城永樂町二丁目 電一七四〇振京一〇八 堀崎商店

◆懸賞募集!!!

近く有樂館に三日間限り公開されんとする『カビリア』以上の世界的文藝大寫眞とは？

答案 五條

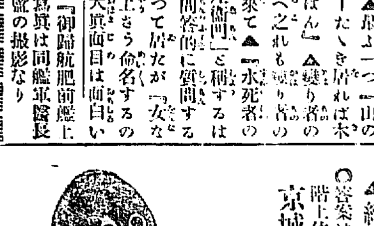
第一、フヰルムの原名製造會社
第二、原作者の氏名國籍
第三、帝國劇場へ上場年月日
第四、主腦俳優及役割
第五、東洋映寫權利獲得者

▲回答は封書とし判紙白紙半截に記載の事
▲宛名は早川演藝部傍に懸賞應募と朱記の事
▲締切り大正六年七月三日正午限り

○答案は著到順に番號を附し大正六年七月三日午後一時より有樂館階上休息所に於て京城日報記者立會の上開封し翌七月四日京城日報朝刊に發表す

▲正答者に左記賞品を呈す

◆一等 有樂館一等觀覽券五十枚
◆二等 有樂館一等觀覽券卅枚
◆三等 有樂館一等觀覽券廿枚
◆四等 有樂館回數觀覽券三册
◆五等 有樂館回數觀覽券一册



東京小林商會滿鮮一手代理店 米國ユニヴアーサル會社特約

京城櫻井町一丁目 電話長四七七番 早川演藝部

支局主任招聘

今回本社業務擴張の爲め京城に於て多少新聞事業に經驗を有する支局主任を募集す希望の方は至急在住地身元保證人二名姓名を附記して履歷書及希望條件送附あれ

東京市芝區南佐久間町一の一 運輸日報社

開業廣告

外科 花柳病 皮膚病 專門

京城旭町一丁目（東科本店裏日の丸市場側）

外科 皮膚科 牧醫院

●長官警務部長奉送 佐々木警南長官水間同警務部長は李王殿下を南大門驛迄御見送り申上げたり（釜山特電）

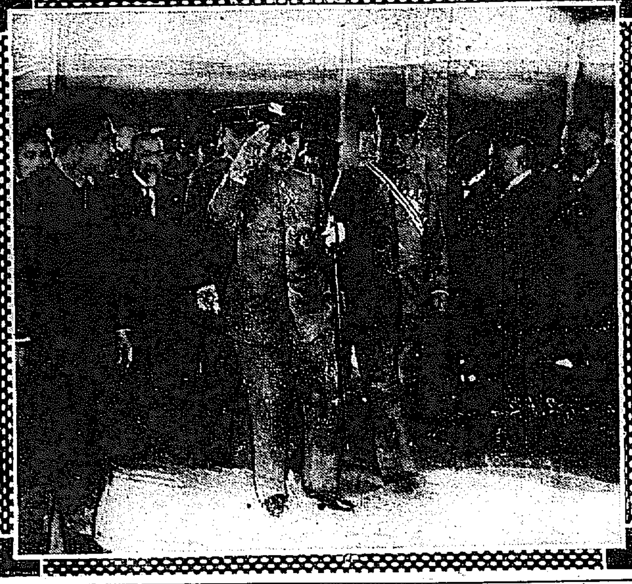
●（……）最上丸は無事か 既報沈没を傳へられたる最上丸は多分無事なるべしと（大阪特電）

●（……）の注文 日本（……）鐵道會社は露國よりの注文引受たるも（……）切り職工二千五百名を解傭せんとしたるより職工中不穩の計畫を爲す者あり依つて十三橋警察署（……）

●黒崎驛構内の椿事 九州筑豊線黒崎驛にて二十八日午前三時空炭列車構内に進入の際ポイントメンの過失より列車は他の線路に（……）二十八日（……）

●（……）の家出 大阪市南區（……）町四丁目白根勇吉方に寄宿せる九名の裁縫見習生は一同々時に家出を爲したるが中七名は何れも（……）

●嫉妬の放火 慶北醴泉（……）面臥龍洞（……）（五〇）は同地（……）（二三）といふ女と不義しゐたるが男は（……）離（……）放火し同家を全燒せしめ何れか逃走したるを此程其筋の手に捕へられ目下取調中



◇李王殿下南大門驛御著

●芽出度御禮の御意を果されつ 李王殿下御歸京

太王殿下並に妃殿下との御語らひ いと濃かならめと拜察しまつりて

參內御禮の爲め御東上中なりし昌德宮李王殿下には京城御出發以來二旬の日を重ね御豫定の如く二十八日午後五時四十分南大門驛著特別列車にて御恙なく御歸京あらせられたり、此の日は午前中迄數日來の霖雨霏々として降り注ぎしが午後三時頃より天候恢復し殿下の御召列車の著京前約三十分より天空一碧拭ふが如く霖雨の名殘痕なく晴れ渡り雨に洗ひ淸められたる市街の上に赫々たるみな月の日は輝き渡りたり市中は各戶

●國旗を掲揚して王の恙なき御歸宮を祝迎したり、御召列車著驛三十分前に南大門驛頭には騎兵二十七聯隊第三中隊長中村大尉の指揮する騎兵二小隊の儀仗兵及び南大門南方西側には步兵第七十八聯隊一箇大隊及び朝鮮步兵隊全部堵列し停車場には內鮮文武高等官、民間代表者、宗敎家、李王職高等官同判任官各係員女官等處狹きまでに整列して御著車を待つ斯くて定刻に至るや御召列車は徐々として構內に進入すれば此の時漢江通練兵場北側丘阜に放列を敷ける野砲兵中隊より發射する禮砲は殷々として響き渡る間にやがて御召列車は靜止し李王殿下には御生來始てなる長途の御旅行に聊か

●御疲勞の御模樣さへもなく御附武官の御先導で閔李王職長官、國分次官、尹贊侍、李武官以下李王職々員、尹澤榮侯、李載崐子其他の隨員並に下關まで御出迎への山縣政務總監、立花師團長、古海警務總長、李堈公殿下、朴泳孝侯、李完用伯、李海昇侯等を伴はせられ御召列車より下りプラットホームに御迎へ申上げたる內鮮文武官々民代表者赤十字社員愛國婦人會員等に御鄭重なる擧手の御挨拶を遊ばされ貴賓室廊下より車寄せに步を運ばれ玆に御待受け申せし御用馬車に召さるれば儀仗騎兵は先驅後衞して轡の音も勇ましく南大門通りを北に進ませ給へば道路左側に堵列せる步兵七十八聯隊の一箇大隊及び朝鮮步兵隊全部の堵列兵は

●一齊に捧銃し肅然たる喇叭吹奏の中を通過せられ太平通に進めらるれば道の兩側には數萬の內鮮各學校生徒堵列し猶王の御蹕還を拜觀せんと夥しき內鮮市民は山の如く群集し來れり王の御馬車は綠濃やかなる街路樹と幾萬市民の堵列の間を徐々昌德宮に入らせられ久方振りにて父宮に御對面遊ばされ御歸還の御挨拶を遊ばされたる後六時三十分御退出光化門通鍾路通りより順路昌德宮へ御歸還遊ばされたり

◇（上）昌德宮御歸還 （下）德壽宮御出門

●農民大擧して巡警局を襲ふ 牛馬税に不平を稱へて 更に鳳凰城の南方に押し寄せんとす

鳳城縣を中心とせる南海一帶の農民は牛馬税に不平を稱へ兩三日前大擧して同地巡警局を襲ひ巡警六名を毆打して人事不省に陷らしめ銃器を掠奪し士官以下多數の者を捕縛して更に保衞團を襲擊し事態容易ならざるより豫て鎮撫の爲め出張中の鴻警察署長は極力之を制止せんとせるも農民の氣勢激しく署長をも捕縛し兼ね間敷き意氣込なるより署長等は一時同地を避難せるが暴民の一團は約五六千にて更に二十七日夕刻迄に鳳凰城を距る南方約三十五支里の地點に押寄せ來る可しとの急報あり依つて鎮守使は二十七日正午鎮撫の爲め高麗門へ向け急行せり（安東特電）

●放火して竊盜を働く 不敵なる曲者

京畿道富川郡桂南面範朴里農尹東德（三三）は本年一月十一日午後八時頃同面深谷里居住農田中千太郎方に放火し住家及び倉庫を全燒せしめ損害約二百六十圓を蒙らしめたる上其の混雜中に紛れ込みて竊盜を働きたるに味を占め其の後同月十三日同面深谷里淺野律七及び同月二十二日梧柳洞停車場附近の內地人某五月二十七日同面伐應節里安果淵方等に放火して各二三百圓の損害を與へ同樣手段にて竊盜を働きて逃亡し姿を晦まし此程永登浦に現はれ徘徊中を永登浦署の河崎刑事が格鬪の末逮捕し嚴重取調べの結果同人の父も强盜罪にて入獄中死亡し外數箇所にて竊盜を働き酒食に消費したる旨自白するに至り身柄は京城地方法院檢事局へ送らる

●不義理の借財に苦しみて 平壤遊廓無理情死の後聞

平壤賑町美人樓に於いて平壤郵便局員松下淸一が同樓抱へ娼妓五月事結城砂子を慘殺し己れも割腹自殺を遂げたる無理情死事件は不取敢夕刊に報道したる通りなるが

◇今其の詳細を 聞くに昨廿八日午前八時頃同樓の娼妓朝日が客を送りて己れの部室に立戾らんとする際娼妓五月の部室より怪しき呻き聲の聞ゆるにて恐々ながら覗き見るにこは如何に五月は寢衣に血みどろになり全身紅に染みて倒れ居たるより朝日は腰を拔かさんばかりに驚き大聲揚げて呼立てしより大騷ぎとなり見れば五月は乳の下二ヶ所の致命傷及び十餘ヶ所の刄傷を負ひて絕命し其の傍に加害者松下淸一は（……）

◆多量に服用 して苦悶し居るより直ちに其旨を警察署に急報し

◆二十數回も 登樓したる原警部は寺田刑事及び齋藤、稻葉兩公醫を隨へ檢證を遂げ兩人に對してはそれ〴〵應急手當を施したるも女は旣に絕命して時を經男は午前八時三十分に至りて絕命したり兩人の關係は本年四月頃松本が登樓したるより始まり其後松本は深く五月の色香に迷ひ二十數回も登樓したるも女の方にては左まで深かく思はざるのみか松下の登樓するを悅ばざる風ありたり然るに松下は一心に思ひつめ自分が郵便局より支給せらるゝ三十二錢の日給は元より國元へ病氣と稱して屢々金錢の無心を爲し悉く之れを消費し且つ友人知己の間は出來る丈けの借財を爲し愈々首の廻らぬ仕儀となりたるより

◆今月の初め それとなく女に情死を迫りたるも女より何時も手酷しく跳ね付けられしより遂に無理情死を爲さんと決心し二十二日午後七時頃兇行用の六寸餘りなる白鞘の短刀及び（……）

◆中途退學を 爲し四十年十二月豐橋騎兵十九聯隊に入營四十三年除隊後（……）郵便局に奉職大正四年四月渡鮮平壤郵便局に奉職して今日に至れり同人は獨身者にて平壤（……）町に借家を爲し自炊し居たり此の凶報に接し平壤郵便局にては二十七日付を以て同人を解雇したれば形式上同人は局員に非ざる事となれり被害者結城砂子は福岡縣嘉穗郡大隈町字大隈千六十番地鹿之助二女にして

◆某方へ緣付 きしも元來福岡女學校卒業後東京の淫奔の女故離緣と爲り四十四年渡鮮釜山芳千閣（其頃千よし）及び榮山浦朝日樓京城新町日曜樓等を轉々し昨年二月現在の美人樓へ九百圓の前借にて抱へられたる者にて同人は多少の文字あるより低級なる遊治郎連より文學藝妓などと持揚げられて居たる者なりと猶女の死體は廿八日本願寺にて葬儀を營み男の屍體は關係人引取りたり（平壤支局電話）

●力士歡迎會 在京城高知縣人會にては今回乘込の東京大相撲中に同縣出身力士の多數なるより三十日午後五六時より旭町白水樓にて歡迎會開催の由なり會費二圓五十錢當日持參可成多數の出席を希望すべしと

●友枝未亡人産婆開業 故朝鮮通信社長友枝三郎氏未亡人まさ子は此程産婆及び看護婦の許可を得て愈々本町五丁目三六に開業せり困窮者に對しては施術を辭せざる由なるが殊に朝鮮語に堪能なるを以て朝鮮人方面の職務に便利なりと

▲廿八日御歸還の李王殿下には御旅行中常に德壽宮の李太王殿下と電信の御交換を行はせられた▲ここに下關にて御乘艦肥前に御移乘のみぎりは艦上から無線電信を以て御機嫌伺ひあり▲次いで長谷川總督と三巖の盃をあげてお別れの際には只今總督と別れるけれ共代りに山縣政務總監が一緒なので大變心づよく思ふと電攷されたり▲ところが李太王殿下からもそれは自分も非常に滿足に思ふと御ねんごろなる御返電があつたといふ▲また李王殿下の御健康勝れさせられたことは何よりのことで只今では何事によらず御活潑に御自分で遊ばされ長途の御旅行中軍旗に對する敬禮奉送者への御會釋等おそばの者が感じ入つてゐた▲それに隨從員一統の深大な印象をのこしたことは內地人一般の熱誠罩めし驩迎ぶりであつた▲殊に沿道田植中の人達までが何れも笠をとつて威儀を正して敬禮するにはホト〳〵感に堪へなかつたといふ▲ことに女官などはなるほど內地人は偉いとばかり非常に感心して歸つて來た▲それに關門海峽の大里の松原では可愛らしい小學生が小旗をかざして萬歲を高唱したのでそれが艦上まで手にとるやうに聽ねて非常なるお悅びになつたといふ▲また殿下には南大門御安著後直ちに德壽宮に駕を向けられた▲これは一刻も速く御父君に對し內地のよろこばしいお土産ばなしを申さるゝ爲めであつたと承はる

最新刊

書名	著者	定價
●簞笥	岡本米藏	一、〇〇
●進むべき道	南條文雄	一、三〇
●新譯韓非子	野中元三郎	九〇
●家庭改良と家庭教育	佐々木吉三郎	二、〇〇
●微積小學の基本概念と問題と解方	永野末吉	一、三〇
●新案岡堀式算術練習法	岡堀賀三郎	六〇
●簡便なる速算の秘訣 珠算と筆算	佐々木政吉	五〇
●俗語大辭典	堀籠美善	特一、八〇
●論理必携 論辯學奥義	今福忍	九〇
●和洋建築設計製圖	木楡怨一	一、二〇
●實驗蔬菜不時栽培法	恩田鐵彌 岩田次一郎 共	二、七〇
●竹の下枝	小川直子	二、〇〇
●文藝模範書簡文講話	大町桂月	特一、二〇
●ジャンクリストフ 闇を破つて	三浦關造譯	一、三〇
●東京の三十年	田山花袋	一、五〇
●日本婦人生若き婦人の心得	吉岡	一、〇〇
●光源氏の一生	高須梅溪	六五
●漫畫道中記	岡本一平	六〇
●琵琶名曲集	永田錦心	八〇
●俳諧芭蕉談	西美庭文曉	五〇
●いたづら小僧日記 おてんば娘日記 合本	佐々木邦	七〇
●日本世界見物	瀧川玄耳	一、二五

京城本町一丁目 大阪屋號書店

山縣五十雄 村上唯吉 共著
富の道しるべ 價十五錢 郵税二錢
京城太平通 振替三〇番 京城日報社代理部

京日案內

普通 一回前金 五十錢 番外 一回前金（一名一圓）

樂器萬年ペン物理機械謄寫版の修繕 本町ウツボヤ書店工作部 電話二一三七 149

外務員募集 京城壽町八番地 旗揭用器製造販賣元 國誠社 196

男女記者通信員及地方支局長若干名採用 本人來談要履歷書 京城吉野町一ノ二七 帝國新聞支社 202

●內地人給仕一名入用 但十四歲以上十六歲迄 希望者は同所へ出頭 京城商業會議所 203

女子集金人至急募集 希望者は至急來談の事 京城太平町通二丁目電話二八三一 勸業貯蓄會社支部 199

外務社員招聘 履歷書携帶毎日午後二時より四時迄の間來談あれ 明治町二ノ五六 東條 198

●電話讓受たし（電話一二三四四番へ） 201

鑛物各種分析 太平町二丁目三六（電話二八三三）道路向側入る 醬油店 松永分析所 200

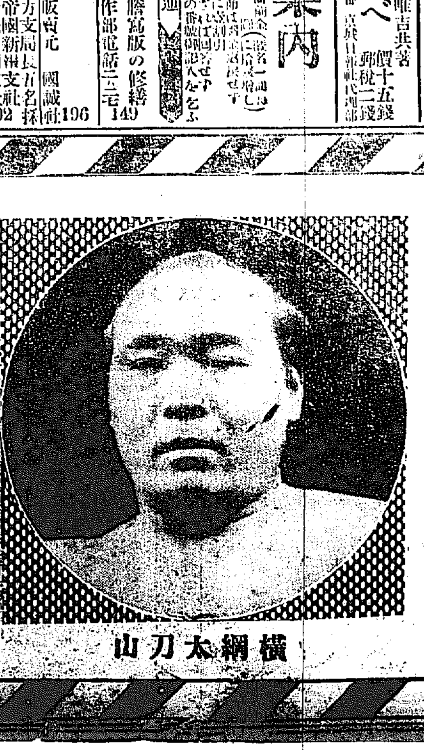
汽罐及搗鑛機賣却 京鐵十五馬力搗鑛機枠數廿本 百五十磅 望の方委細御照會を乞ふ 慶北善山郡玉城面九鳳洞 吉尾 193

店員至急入用 年齡十八九歲より二十五六歲迄 五六名 但し確實なる保證人を要す 仁川新町 津田兄弟屋 187

●朝鮮語科 ●英語科 新學期 三ケ月修業 各級補缺募集 南大門通漢城銀行向ひ 京城靑年會 192

東京大相撲京城興業中愛飲家各位の御便宜上場內に於てキリンビールを販賣致させ候間多少共御注文願上候

熱狂せる 滿都好角家の 視線は 横綱「太刀山」に 集る!!



横綱太刀山

滿都 愛飲家の 嗜好は 麥酒界の 横綱「キリンビール」に 集る!!

京城本町一丁目 株式會社 明治屋京城支店 電話二一、二二番

花かたみ (四〇)

松田竹の島人作

京子には、最う田淵の心の中が能く解つて、其羈絆を脱する、言はゞ毒蛇の口を遁れるには、借りてくれた家を立退いて、什麼にか自活の道を立てやうと思つた。

けれども餘り何にやかやで心を勞した故か、其後頭が重くつて、眩暈が爲て、起きてゐるに堪へなかつたから、起床に横はることゝ爲た。早く身體の工合が快く爲つて、此家を立退きたいと、心を燥焦るだけ倘ほ身體は勝れなかつた。

然うして四五日を過すと、雇ひ婆々が心配して、醫者に見せることを勸めたので、最寄の回生病院長の樫本瀞徹の診察を受けた。そして醫藥に親しんだが、元來心から頭腦に及ぼした一患であつたから、右から左と藥劑の効驗が現はれて、全癒ることではなかつた。樫本院長は、何んでも心を大きく持つて、あらゆる心配を排除するやうにと注意した。

京子は、樫本院長の言ふことに感じて是非とも然う爲やうと思つたけれども、心の方で承知しないで、眼の前に花枝や夫や田淵が浮かみ出して、忘られなかつた。

朝からどんよりと曇つた日であつたから、頭から何にか蔽ひ冠されたやうで、一層頭が重かつたところへ雇ひ婆が來て

『東京から、お豐さんといふ婦人の方が來ました』と取次いだ。

京子はお豐と聞いて、小間使のお豐に相違ないが、自分が此處に居ることを什麼して知つて來たか?。日頃氣に入りのお豐のことであつたから、懐しくつてならず、早く逢ひたいと思つたから、通すやうに命じた。

程なくお豐は、寢間へ入つて來て京子が寢てゐるのを見ると、宛も魂消たといふ擧動を爲て、

『おや奥樣、什麼か遊ばしたんでございますか?。』と言つたまゝ、挨拶もせずに、其枕邊に座つた。

『豐や、よく來ておくれだねえ。』と京子が宛も嬉しさうに言ひ、起きて布團の上に座ると、お豐は勵るやうに

『奥樣、御起きに爲らない方が宜しうございますよ。』

『何にお前、病氣といつたところで頭腦から來てるぶら〳〵病だから、横にばつかし爲つてるよりか、時々起きた方が可いんだよ。』

『左樣でございますか、それならそれで宜しうございますけれど、此の御部屋に入つて來て、奥樣が御臥床に爲つてるもんですから、什麼遊ばしたのだらうと、甚麼に喫驚致しましたか知れませんでございますよ。御目にかゝつたら、種々御噺爲やうと思つて參りましたが、愈々御目にかゝつて見ると、何にから御噺申上げて可いか、譯が分りませんでございますよ。』

京子はお豐を、田淵と同じ穴の狐とは知らなかたし、平素才の氣に入りであつたに、非如才ないと快活な口の利きやうには、何んとなく氣が晴れやかに爲つて來た。

『お前今夜泊つて可いだらう?。』

『ねゝ宜しい段ぢやございません、何時までも御傍に置いて戴きたいと思つて參つたんでございますよ。』

『お前が傍に居てくれゝば、病氣は直ぐと全癒つて了つてよ。』

『然う致しますと、奥樣の御病氣には、御醫者樣より草津の湯より、妾の方が餘程効驗がございますわねえ、オホヽヽヽ』とお豐は追從笑ひを爲る。

『然うしてお前は、什麼して此處へ來たの?、第一妾が此處に居るのが能く分つたわねえ。』

『それに就いて種々御噺があるんでございますよ……おや何んてことでせう、餘り御噺に實が入つて、御土産を持つて參つてましたのを忘れてゐました。』とお豐は起つて、玄關へと往つた。

皮膚科 佐藤醫院
入院隨意(診察夜九時迄)
皮膚病 黴毒 淋病 膀胱病 生殖器 機能障碍
日曜祭日午後二時迄
京城明治町二丁目(元町一丁目)
(電話一一七三番)

◎○○○○○○ 橋本昌徳宮署長の随從吟 李王殿下御東上に隨從せる氏の途中の感吟左の如し

皇族雄樹つ巨艦や風薫る
楠木の若葉匂ふや湊川
トンネルを多フロックの暑き哉
腰巻の赤きも交る田植哉
瀧音は何處御苑の茂りかな
梅雨雲の重なる富士や汽車の窓

涼み臺

□勝本博士の苦學 法學博士で辯護士で有名な法學者の勝本勘三郎氏は苦學生時代に猛烈な苦學をしたものださうだ△其苦學時代氏の氣骨稜々たるを見て或る人が感心して氏に學資を與へることにした是天に雲霓で氏は是れから從來の苦境を一洗するのだとあつて盛んに遊んだのが出資者の逆鱗に觸れ遂に爾來斷絶となり又も本の杢阿彌に返つた△番然大いに悟つて其後の博士は全く別人となり下宿の俄鬼と鬪ひながら夜を日に接いで勉強したので友人達は勝本は變だナアと云ひ合つてゐた△眠氣が催すとナイフで『汝死一等を減ず』と股をチクリ〳〵と刺して勉勵したものださうでこれは氏の有名な立志談である△其間食ふや食はずで勉強した爲めか顏色は蒼白であつた口の悪い連中は『勝本は豆腐の殻許り食つてゐるから、色が悪い』と酷評したが酷評連中はドコへ往つたか名も分らなくなつて酷評された氏獨り今日の成功を見たといつて今も美談として居るものがある

▲十萬圓の翡翠 支那から渡つたとかいふ十貫目の翡翠の置物を十萬圓で、大阪の久原房之助氏に賣込まうとしたものがあつた△大阪で十萬圓なれば東京では十四五萬圓に賣れるであらうと云つて、運賃と手數とをかけて態々東京へ持込むと、戀く刎れ半額の五萬圓にしか値が出ない△持主の佐伯某もこれには弱つて又荷造りの手數と運賃とをかけて大阪に逆戻りさせた、そこで持主は今更のやうに大阪の金滿家の太ツ腹を感心したといふが△その翡翠のムザ〳〵大阪に還るのを見た非金持の一人は、東京に一人の名を成すものがないのは殘念の至りであるといつて慨慨したと、これも或者から通信があつた

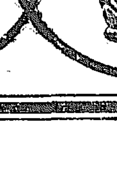
讀者の領分

▲數日前の夜龍山の或る産婆さんが俥に迎へられて元山線に添ふた立派な家に行つて出産も無事取濟ませ謝禮金として十圓紙幣一枚を渡され珍らしい馳走を受けたが後は最う來なくても宜しいと言はれ不審ながらに歸宅したが念の爲め翌日其の邊を搜して見たが更に似寄りの家もなく全く隣の分らぬ一夜が今更のやうに恐ろしくなつて右の紙幣を調べて見たが夫れは立派な鮮銀の十圓券であつたと言ふ噂があります何のことやら其の僞を(龍山の土工)▲此の間から市中の竹藪が數名警察に引つ張られたことは未だ書かないやうですがなぜですか被害者には高官など深山あるやうです(僞物賣)▲京城南山町の裏通りに二十一になる發狂美人がある毎日裸體で暴れ廻るさうで何でも繼母が虐待するとか言ふ噂があつたもので此の頃警察の方で調べに來たやうだが事實は如何か知ら偖其の姉も精神に異状があつて今内地に居るさうだ(南山探偵)▲ドッチへ行つても醫者の居る處迄は十里もある様な田舍ではどんな木偶でも藪醫でも總督府の任用した公醫ならどんなに重寶が高うても病持つ身の御互ひは皆な其の公醫の宣言を信頼して身體が大事と服藥してゐるそれを講習會だの何だのと色々な名義を附けて三週間も一箇月も他所行きをやるので公衆の迷惑は一通りやないそれも時季を考慮してやると云ふならまだしもだ切角惡疫の流行せんとする此の頃やると云ふ考へは一體どんなものだらう田舍にゐて働く人も椅子に凭つて居眠る人も人命の貴重なるは同じの筈だ止むを得ず公醫召集の必要ある場合は替りの醫者でも差し廻すか何とか良い考へは無ものか御一考が願い度いア、醫者の居らんのも困つたものだが又居る醫者の惡いのも命の縮は危險なものだ(急性大腸カタル)

▲保合大浮足 [illegible]

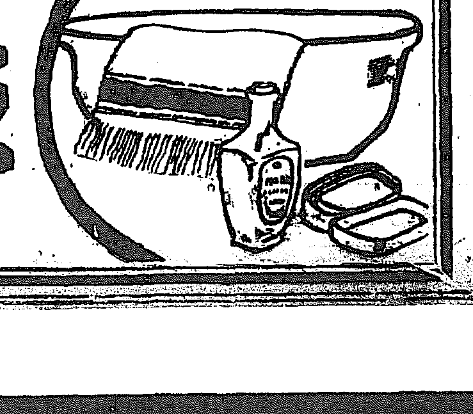
▲天候恢復乎 [illegible]

▲現物界 [illegible]

赤毛を生ぜしむるの恐れ絶對になし
レートーポマード

此の新煉香油生れて男子にはコスメチック、女子には鬢附が全く不要!!
それ程附け工合といひ、艶といひ、匂といひ一點の非のない最新式の煉香油です
東京 平尾贊平

御婦人は御婦人らしく優艶に
男子は男子らしく爽快に
肌の色艶を美しくする
家庭お化粧料
色を白く日ヤケを防ぐ優良白味劑
東京で一番よく賣れる家庭化粧料
ホーカー液
朝夕二三滴づゝお用ひ下さい

布哇の少女より
もう此方の氣候にも馴れました。……風もソヨ〳〵と吹いて、内地の様に眷田の眺めこそ無けれ、生活に申し分はムいません……こちらに參りました時は、日が強く何だか日ヤケをする様に思ひましたので、内地で使つてゐたホーカー液を取寄せましたが、後で當地のお化粧品店に行けば何處でも賣つて居て日本人ばかりでなく白人も使つてゐる事を知りました



定價 小瓶(包裝)金二十錢 中瓶(桐箱入)金四十錢 大瓶(同)金八十錢 送料 内地無料 滿鮮廿錢
全國到處小間物店、化粧品店、藥店に販賣す
最寄の店に品切の際は振替又は三錢切手代用にて御注文下さい
ホーカー液 ホーカー粉 ホーカー白粉 ホーカー美髪液 ホーカースヰート
東京市神田區和泉橋際
本舖 堀越嘉太郎商店
電話神田(特長)一四三、一四四、一四五 振替東京一五一六

此時……ハンカチに
薫らにやならぬものは
金鶴香水
ツル香水

排下公告 京城府
一、明治町所在元漢城病院内附屬建物入札月日七月五日午前十時詳細ハ會計係ニ就キ照會スヘシ

物品拂下
古乗鞍外百貳拾點
右ハ七月拾壹日競爭入札ニヨリ賣却ス詳細ハ六月貳拾九日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ門前掲示ヲ見ヨ
六月廿八日 朝鮮駐箚陸軍兵器支廠

是れ!是れ最高能率を有し眞に理想的
パイン萬年筆を直ぐ御買ひなさい!!
◎大日本政府登錄 米國製正十四金「イリジーユム」付ペン (責任保險付)
PIN,, E"

◎附言 パイン萬年ペンは自然の破損又不具合の節は滿一ケ年間交換又無料[illegible]
完全なる設備と老練なる技術者に依各種萬年筆即時修繕
東京パイン萬年[illegible] 京城旭町[illegible]
發賣元 京城大平通一丁目 京城日報代理部 振替京城三〇〇番
陳列所 京城本町二丁目 ウツボヤ番店
定價 押出式 [illegible]